

# 第 1 学年

## 教養系教育・基礎科学教育科目

美 術	57
統 計 数 理 学	58
情 報 リ テ ラ シ ー I	59
英 語 基 礎	61
英 語 I	62
心 理 学	63
経 営 学	64
日 本 語 学 I	65
医 療 倫 理 学	68
基 礎 物 理 学	69
物 理 学 実 験	71
基 礎 化 学	72
化 学 実 験	74
基 礎 生 物 学	76
生 物 学 実 験	79
歯 科 医 学 演 習	81
歯 科 医 療 概 論	82
基 礎 歯 学 概 論 I	83
臨 床 歯 学 概 論	84
臨 床 心 理 学	85
歯 科 医 療 人 間 学 I	86



# 美術（前期・1単位）

D①②A-b1-1101(D1101)

科目責任者：渡部 憲生（非常勤）

科目担当者：①渡部 憲生（非常勤）

## 1. 科目の概要

「美術」は過去から未来への文化の伝承を担う営みであり、造形的な表現と鑑賞を通じたビジュアルコミュニケーションを展開する世界である。私たちの身の回りに存在している「美術」は、意識・無意識にかかわらず、私たちの生活に大きな影響を与えている。たとえば衣服の選択や日用品の購入、住居の環境構成など、それぞれの趣味やセンスとして認識され、顕在化される。「美術」の授業では、そんな私たちの生活に大きな影響を与える重要な文化の一つである“美術”について、よく知られる美術作品の鑑賞や基本的な表現体験を通して、認識を新たにするとともに、造形的な表現活動の楽しさを味わい、文化に対する広い見識と造形表現に関する理解の深まりをねらいとして学習活動を行う。

## 2. 一般目標

造形表現の意味や価値について学び、美術への興味・関心・理解を深めるとともに、文化的・精神的な豊かさについて考察する。

## 3. 到達目標

- 1) 造形表現に関心を持ち、それらを通じた学びの意味を考え、意義深い学習活動を構築することができる。
- 2) 造形的要素を用いた表現を体験し、日常生活や生涯学習に活用できる文化価値を理解することができる。
- 3) 学習活動から得られた認識力、表現技術により、知性的・感性的人格の実現を目指すことができる。
- 4) ものやことに触れ、描画センスや配色の調和感覚、手の巧緻性を高めることができる。
- 5) 授業準備、計画実施、学習意欲等について、多面的に自らの姿勢を振り返り、自己改善することができる。
- 6) 情報や資料の収集に努め、主体的に授業に参加することができる。
- 7) 文化の伝承や民族性について理解し、人々の営みと文化の多様性、芸術活動について理解することができる。
- 8) 美術史学習から造形的な文化について洞察を深め、「美」を求めてきた意義について考察することができる。
- 9) 表現活動を通して、条件や状況に合わせて発想したり企画したりすることができる。

## 4. 履修の進め方

映像やプリント、板書等による講義、紙材や粘土などを用いた表現実習を行う。表現活動では、主題を具体的に表すための発想力や構想力が求められる。授業進度に合わせた学習ペースを考え、主体的に授業に参加することが求められる。

[準備物] スケッチブック、鉛筆（H～4Bを3本程度）、色鉛筆（12色～24色）、ハサミ、カッターナイフ、スティック糊、木工用接着剤、定規

## 5. 準備学修

予習：授業計画を基に表現内容について理解し、主題を明確にした構想を練り上げるとともに、表現の進め方や材料・用具を確認し、表現計画を構想する。（60分）

復習：スケッチブックの描画や作品を自己評価し、自分なりの表現のよさを味わったり修正を加えたりして進度の調整をする。（60分）

その他：手の巧緻性や集中力、人間関係力などの自己評価に基づき、学習姿勢や自己管理について考える。

## 6. 評価方法

提出された作品（スケッチブック）〈50%〉、毎時の授業感想（出席カード記録）及び授業総括レポート〈30%〉、出席状況〈20%〉により評価する。

提出作品については、主題の捉え方、表現技術（作品の質）の他、資料収集力、表現の丁寧さなど、授業への積極性・関心意欲等も加味した評価を行う。作品評価のため、スケッチブックを定められた方法・内容、期日で提出する。

筆記による試験は行わないが、出席確認を兼ねた授業感想カードの提出を毎時ごとに求める。また、授業最終日に授業全体を振り返る総括レポート（1500字程度）の提出を求める。なお、提出されたスケッチブックは評価後返却する。

## 7. 教本

テキスト等については特に指定しない。実習材料として、スケッチブック、色紙（トータルカラー65色）を各自購入する。授業に使用する資料等は、必要に応じて各題材ごとにプリント資料の配付、データ提示を行う。

## 8. 参考書

なし

## 9. 授業内容と日程

(コ：コアカリ記号、国：国家試験出題基準、担：担当教員)

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1 2	4/12	オリエンテーション 表現体験Ⅰ 造形美の発見	本授業のねらい・学習計画等の確認 身の造形美の発見（筆記用具・スケッチブック）		①
3 4	4/19	表現体験Ⅰ 「線で表す」①	線による表現 ① [立体感・遠近感] ( )		〃
5 6	4/26	表現体験Ⅰ 「線で表す」②	線による表現 ② [一コマまんが] ① ( )		〃
7 8	5/10	表現体験Ⅰ 「線で表す」③	線による表現 ③ [一コマまんが] ② ( )		〃
9 10	5/17	表現体験Ⅰ 「線で表す」④	線による表現 ④ [四コマまんが] ① ( )		〃
11 12	5/24	表現体験Ⅰ 「線で表す」⑤	線による表現 ⑤ [四コマまんが] ②, 作品鑑賞 ( )		〃
13 14	5/31	表現体験Ⅱ 「色で表す」①	色の性質とデザインの要素 色の性質を生かした色紙による「四季」の平面構成① [構想] (スケッチブック・色鉛筆・色紙)		〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
15 16	6/7	表現体験Ⅱ 「色で表す」②	色の性質を生かした色紙による「四季」の平面構成② [表現] ( )		①
17 18	6/14	表現体験Ⅱ 「色で表す」③	色の性質を生かした色紙による「四季」の平面構成③ [表現] ( )		〃
19 20	6/21	表現体験Ⅱ 「色で表す」④	色の性質を生かした色紙による「四季」の平面構成④ [表現・完成] 作品鑑賞 ( )		〃
21 22	6/28	表現体験Ⅱ 「色で表す」⑤	色の性質を生かした色紙による「四季」の平面構成⑤ [表現・完成] 作品鑑賞 ( )		〃
23 24	7/5	表現体験Ⅲ 「紙で表す」①	紙による建物の立体表現① [構想] (カッターナイフ・木工用接着剤)		〃
25 26	7/12	表現体験Ⅲ 「紙で表す」②	紙による建物の立体表現② [成形] ( )		〃
27 28	7/19	表現体験Ⅲ 「紙で表す」③	紙による建物の立体表現③ [成形] ( )		〃
29 30	7/26	表現体験Ⅲ 「紙で表す」④	紙による建物の立体表現④ [完成] 作品鑑賞授業総括レポート作成 ( )		〃

## 統計数理学 (通年・2単位)

D②A-a2-1103(D1103)

科目責任者：菊地 尚志 (物理・教授)

科目担当者：①菊地 尚志 (物理)

### 1. 科目の概要

ある病気の発症の頻度に地域差がありそうだとか、あの病気には今回開発したこの新薬が有効だろう、と言った推測は医療の現場で頻繁に生じそうだ。経験や感覚に基づく判断が十分な場合もあるだろうが、より客観的な根拠に基づくやり方が統計学を用いた判断だ。統計学が教えてくれる「推定」や「検定」という技術がそれに当たる。授業ではこの技術の基本的な考え方を理解して初歩的でも現実に応用できることを目指す。その為に前期は、母集団と標本を結びつける確率分布について理解する。具体的には、一様分布、ベルヌイ分布、二項分布、正規分布を区別して理解する。後期に推定と検定の具体的な応用を習う。前期に学習した分布に加えてt分布、 $\chi^2$ -分布を覚え、平均値や分散についての推定と検定をできる様にする。

### 2. 一般目標

統計学の方法を理解して、歯科医師としての客観的、合理的な判断力を養う。

### 3. 到達目標

- 1) 統計資料を整理する。
- 2) 統計量を計算する。
- 3) 様々な確率分布を説明する。
- 4) 統計的推定ができる。
- 5) 統計的検定ができる。

### 4. 履修の進め方

板書を中心に授業を行います。授業をよく聞きノートをきちんと取って、さらに自分で主体的に「手を動かす」ことで理解を深めて行きましょう。

### 5. 準備学修

予習 (30分) と復習 (60分) をしっかり行ってください。

### 6. 評価方法

試験は記述と計算を合わせたものになる。前期定期試験と後期定期試験の結果を総合して65点以上を合格とする。不合格者には65点までの再試験を行う。必要に応じて前期の後に中間試験を行う。

### 7. 教本

統計解析がわかる 涌井良幸, 涌井貞美著 技術評論社

### 8. 参考書

なし

### 9. 授業内容と日程

(コ：コアカリ記号, 国：国家試験出題基準, 担：担当教員)

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	4/11		授業への導入	C-6-2/ 必12-イ	①
2	4/18	記述統計学	度数分布とヒストグラム	C-6-2/ 必12-イ	〃
3	4/25		平均値と分散	C-6-2/ 必12-イ	〃
4	5/9		分散の性質	C-6-2/ 必12-イ	〃
5	5/16		標本の抽出	C-6-2/ 必12-イ	〃
6	5/23		母集団と標本	C-6-2/ 必12-イ	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
7	5/30	確率論	標本空間	C-6-2/ 必12-イ	①
8	6/6		独立な試行	C-6-2/ 必12-イ	〃
9	6/13		確率変数の期待値と分散	C-6-2/ 必12-イ	〃
10	6/20		ベルヌイ分布と二項分布	C-6-2/ 必12-イ	〃
11	6/27		二項分布の計算	C-6-2/ 必12-イ	〃
12	7/4		二項分布と正規分布	C-6-2/ 必12-イ	〃
13	7/11		感染率	C-6-2/ 必12-イ	〃
14	7/18		問題演習	C-6-2/ 必12-イ	〃
15	7/25		問題演習の振り返り	C-6-2/ 必12-イ	〃
16	9/5	推測統計学	母集団と標本	C-6-2/ 必12-イ	〃
17	9/12	推定	平均値の区間推定	C-6-2/ 必12-イ	〃
18	9/19		母平均の推定(分散既知)	C-6-2/ 必12-イ	〃
19	9/26		演習	C-6-2/ 必12-イ	〃
20	10/3		母平均の推定(母分散未知)	C-6-2/ 必12-イ	〃
21	10/10		一般の母平均の推定	C-6-2/ 必12-イ	〃
22	10/17		母比率の推定	C-6-2/ 必12-イ	〃
23	10/24		母分散の推定	C-6-2/ 必12-イ	〃
24	10/31	検定	統計学的検定の考え方	C-6-2/ 必12-イ	〃
25	11/7		母平均の検定	C-6-2/ 必12-イ	〃
26	11/14		母比率の検定	C-6-2/ 必12-イ	〃
27	11/21		母平均の差の検定	C-6-2/ 必12-イ	〃
28	11/28		臨床試験での検定	C-6-2/ 必12-イ	〃
29	12/5		問題演習	C-6-2/ 必12-イ	〃
30	12/12		問題演習の振り返り	C-6-2/ 必12-イ	〃

## 情報リテラシー I (通年・1単位)

D②A-b1-1104(D1104)

科目責任者：古山 昭 (生理・講師)

科目担当者：①古山 昭 (生理)，②芹川 雅光 (解剖)，  
③齋藤 龍一 (材料)

※この科目は、診療経験のある歯科医師が担当する

### 1. 科目の概要

情報化社会また、歯科医療においてもコンピュータを操作できる基礎能力は必須である。情報リテラシー I ではネット社会における適切な情報の取り扱い方法、ワードプロセッサによる文章の作成、表計算ソフトによる表とグラフの作成、プレゼンテーションソフトによるスライド作成、画像処理ソフトによる画像加工を習得する。

また、演習においては学生自ら作問を行う。将来、試験の様々な出題形式についての理解が深まり、コンピュータを使った試験形式にも早期から対応できる。

### 2. 一般目標

医療に対して探求力、解決力、発信力を獲得するために、コンピュータやインターネットの操作に習熟することを目的とする。

### 3. 到達目標

- 1) インターネットで適切な情報の取り扱いができる。
- 2) コンピュータを操作できる。
- 3) Word を用いて文書を作成できる。
- 4) Excel を用いて表およびグラフを作成できる。
- 5) PowerPoint を用いてプレゼンテーション用のスライドを作成できる。
- 6) GIMP を用いて画像加工ができる。
- 7) 課題に対しての問題作成とプレゼンテーションを行うことができる。

### 4. 履修の進め方

コンピュータの基本操作、ネット接続、ソフトウェアの操作を実際にコンピュータを使用して学習する。一学年主要科目の重要事項について問題作成を行う。

### 5. 準備学修

講義の最後に、次回の講義に必要な学習項目および、目を通すべき資料を提示し、簡単な宿題を課す。学習内容は10～30分で遂行可能なものとする。宿題は講義の前日までにメール等で提出させ、教員がチェックして学生の習熟度を把握した上で講義を行う。

### 6. 評価方法

前期後期1回ずつの試験(課題の作成、20%×2=40%)、単元別まとめ課題提出(8%×5回、計40%)、宿題(予習課題)提出(20%×提出率)により評価を行う。再試験は希望者を対象に前期後期1回ずつ行う(最大26%)。課題提出は、提出期限に遅れた場合、点数を減点する。

### 7. 教本

定平 誠著「例題50+演習問題100でしっかり学ぶ Word/Excel/PowerPoint 標準テキスト Windows11/Office2021対応版」技術評論社

Noa 出版編集部 編「情報倫理ハンドブック」noa 出版  
できるシリーズ編集部著「できるクリエイター-GIMP2.10 独習ナビ改訂版 Windows&macOS 対応」インプレスジャパン

### 8. 参考書

なし

## 9. 授業内容と日程

(コ：コアカリ記号, 国：国家試験出題基準, 担：担当教員)

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	4/10	オリエンテーション	授業の概要説明, 個人情報保護, 著作権の保護		① ③
2	4/17	情報倫理	コンピュータの基本操作, ウィルス対策, ネット接続など		ク
3	4/24	ワードプロセッサ①	Wordの基本操作, 文書作成		ク
4	5/8	ワードプロセッサ②	文書デザインとレイアウト, 書式設定		ク
5	5/15	ワードプロセッサ③	オブジェクトの設定, 図の応用		ク
6	5/22	ワードプロセッサ④	ラベルの作成		ク
7	5/29	表計算①	Excelの基本操作, 表の作成		ク
8	6/5	表計算②	計算式の入力, 関数の応用		ク
9	6/12	表計算③	グラフの作成		ク
10	6/19	表計算④	データの整理と検索		ク
11	6/26	表計算⑤	表計算弱点補強		ク
12	7/3	プレゼンテーション①	PowerPointの基本操作, スライドの作成		ク
13	7/10	プレゼンテーション②	スライドのデザイン, スライドの編集		ク
14	7/17	試験	前期試験		ク
15	7/24	プレゼンテーション③	自分の趣味をプレゼンテーション		ク
16	9/3	プレゼンテーション④	自分の趣味をプレゼンテーション		ク
17	9/10	プレゼンテーション⑤	自分の趣味をプレゼンテーション		ク
18	9/17	プレゼンテーション⑥	自分の趣味をプレゼンテーション		ク
19	9/24	プレゼンテーション⑦	自分の趣味をプレゼンテーション		ク
20	10/1	プレゼンテーション⑧	自分の趣味をプレゼンテーション		ク
21	10/8	画像処理①	画像加工(1)		ク

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
22	10/15	画像処理②	画像加工(2)		① ③
23	10/22	画像処理③	画像加工(3)		ク
24	10/29	画像処理④	画像加工(4)		ク
25	11/5	画像処理⑤	画像加工(5)		ク
26	11/12	画像処理⑥	画像処理弱点補強		ク
27	11/19	試験	後期試験		ク
28	11/26	問題作成①	問題作成		ク
29	12/3	問題作成②	問題のブラッシュアップ		ク
30	12/10	問題作成③	問題のプレゼンテーション		ク

# 英語基礎（通年・1単位）

D①②A-b1-1106(D1106)

科目責任者：長峯 英樹（英語・講師）

科目担当者：①長峯 英樹（英語）

※この科目は、一般企業勤務経験のある教員が担当する

## 1. 科目の概要

当講義は、異なる文化や価値観の多様性を理解できる歯科医師となるために、英語の基礎力向上を第一の目的としている。

## 2. 一般目標

英語の理解スピードと精度を向上させるために基礎的な語彙と文法を復習する。自分の意見を述べるときに役立つ表現を数多く覚える。

## 3. 到達目標

- 1) 基礎的な文法を復習し、表現方法の細かなニュアンスを理解できるようにする。
- 2) 国内外の社会問題の背景を英語で学び、語彙・構文、時事表現を覚える。
- 3) 論争テーマに関する賛成・反対の争点を英語で理解できるようにする。
- 4) 英語で発信するための基礎スキルを身につける。

## 4. 履修の進め方

英文の音読とサイトトランスレーションを丁寧に行うことにより、類出語彙や時事表現、基礎文法を学ぶ。次に、テーマに対する賛否とその根拠を整理・理解するとともに類出の表現パターンを覚える。

## 5. 準備学修

<予習>

- ①各 Unit の英文の音声聞いて、発音リズムを確認 (20分)
- ②英文を読み、語彙の意味を確認 (30分)
- ③講義で質問すべき点をリストアップ (10分)

<復習>

講義で学んだ英文の音声を、発音リズム、意味などを確認しながらリスニング (30分)

<その他>

日常的に、映画や雑誌・新聞など、できるだけ多く英語に触れるよう心がけること。

## 6. 評価方法

筆記試験 (100%) により評価し、100点満点中65点以上を合格とする。

なお、筆記試験は①前期定期試験、②後期定期試験、③ Review Test (全8回) の合計を平均した点数で評価される。筆記試験のフィードバックは基本的に次回講義時に解説する。

## 7. 教本

植田一三, Pros and Cons-Discussing Today's Controversial Issues, Cengage Learning

## 8. 参考書

なし

## 9. 授業内容と日程

(コ：コアカリ記号, 国：国家試験出題基準, 担：担当教員)

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	4/10	Unit 1	Internet Safety or Freedom of Expression?	C-7-1/ 必12-ウ	①
2	4/17	Unit 2	Honor or Burden?	C-7-1/ 必12-ウ	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
3	4/24		Review (1-2)	C-7-1/ 必12-ウ	①
4	5/8		Review Test (1-2)	C-7-1/ 必12-ウ	〃
5	5/15	Unit 3	Clean Energy or Potential Threat?	C-7-1/ 必12-ウ	〃
6	5/22	Unit 4	Real Risk or Great Technology?	C-7-1/ 必12-ウ	〃
7	5/29		Review (3-4)	C-7-1/ 必12-ウ	〃
8	6/5		Review Test (3-4)	C-7-1/ 必12-ウ	〃
9	6/12	Unit 5	Legalization or Outlawing of Gay Marriage?	C-7-1/ 必12-ウ	〃
10	6/19	Unit 6	Separate Smoking Area or Total Ban?	C-7-1/ 必12-ウ	〃
11	6/26		Review (5-6)	C-7-1/ 必12-ウ	〃
12	7/3		Review Test (5-6)	C-7-1/ 必12-ウ	〃
13	7/10	Unit 7	Right to Die or Responsibility to Live?	C-7-1/ 必12-ウ	〃
14	7/17		Review (7)	C-7-1/ 必12-ウ	〃
15	7/24		Review (1-7)	C-7-1/ 必12-ウ	〃
16	9/3	Unit 8	Punishment or Discipline?	C-7-1/ 必12-ウ	〃
17	9/10	Unit 9	To Skip or Not to Skip?	C-7-1/ 必12-ウ	〃
18	9/17		Review (8-9)	C-7-1/ 必12-ウ	〃
19	9/24		Review Test (8-9)	C-7-1/ 必12-ウ	〃
20	10/1	Unit 10	Performance or Seniority?	C-7-1/ 必12-ウ	〃
21	10/8	Unit 11	Free Trade or Protection?	C-7-1/ 必12-ウ	〃
22	10/15		Review (10-11)	C-7-1/ 必12-ウ	〃
23	10/22		Review Test (10-11)	C-7-1/ 必12-ウ	〃
24	10/29	Unit 12	Animal Rights or Human Profits?	C-7-1/ 必12-ウ	〃
25	11/5	Unit 13	Peace Constitution or Revision?	C-7-1/ 必12-ウ	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
26	11/12		Review (12-13)	C-7-1/ 必12-ウ	①
27	11/19		Review Test (12-13)	C-7-1/ 必12-ウ	〃
28	11/26	Unit 14	Death Penalty or Human Rights?	C-7-1/ 必12-ウ	〃
29	12/3		Review (14)	C-7-1/ 必12-ウ	〃
30	12/10		Review (8-14)	C-7-1/ 必12-ウ	〃

## 英語 I (通年・1単位)

D②A-b1-1107(D1107)

科目責任者：長峯 英樹 (英語・講師)

科目担当者：①長峯 英樹 (英語)

※この科目は、一般企業勤務経験のある教員が担当する

### 1. 科目の概要

本講義は、「英語基礎」の科目で学んだ内容の応用編である。グループワークを中心に、課題テーマについてグループで調査し、英語での発表を経験する。

### 2. 一般目標

国内外で論争となっている様々な社会問題の背景知識について英語で学び、論理的に自分の意見を述べる基礎的なライティング力とスピーキング力を身につける。

### 3. 到達目標

- 1) 「英語基礎」科目で学んだテーマについて、テキスト以外の資料を読むことで理解を深める。
- 2) 大手メディアで報道される海外の時事ニュースに慣れる。
- 3) 関心テーマについてグループで調査し、英語で発表する経験を積む。

### 4. 履修の進め方

「英語基礎」で学んだ知識をもとに、プレゼンテーションスキルの向上を目的とした講義内容となる。グループワークが中心となる。

### 5. 準備学修

予習については基本的に「英語基礎」と同じであるため、下記の復習に力を入れること。

<復習>

「英語基礎」の復習 (リスニング) に加え、講義で指摘された重要語句・表現を含む英文を何度も音読したり、書いたりをしながら覚える (約30分)

<その他>

「英語基礎」で使用するテキストの英文を習熟すること。また、映画や雑誌・新聞など、日常的にできるだけ多く英語に触れるよう心がけること。

### 6. 評価方法

筆記試験 (100%) により評価し、100点満点中65点以上を合格とする。

なお、筆記試験は①前期定期試験、②後期定期試験の平均点で評価される。筆記試験のフィードバックは基本的に次回講義時に解説する。

### 7. 教本

「英語基礎」と同じ (植田一三, Pros and Cons-Discussing Today's Controversial Issues, Cengage Learning)

### 8. 参考書

特になし。

必要に応じて、新聞や雑誌などの特集記事のコピーを配布。

### 9. 授業内容と日程

(コ：コアカリ記号, 国：国家試験出題基準, 担：担当教員)

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	4/10	Unit 1	Controlling Internet content	C-7-1/ 必12-ウ	①
2	4/17	Unit 2	Hosting the Olympics	C-7-1/ 必12-ウ	〃
3	4/24		Review (1-2)	C-7-1/ 必12-ウ	〃
4	5/8		Review Test (1-2)	C-7-1/ 必12-ウ	〃



回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
5	5/15	Unit 3	Restoring nuclear power generation	C-7-1/ 必12-ウ	①
6	5/22	Unit 4	GM foods	C-7-1/ 必12-ウ	〃
7	5/29		Review (3-4)	C-7-1/ 必12-ウ	〃
8	6/5		Review Test (3-4)	C-7-1/ 必12-ウ	〃
9	6/12	Unit 5	Legalizing gay marriage	C-7-1/ 必12-ウ	〃
10	6/19	Unit 6	Banning smoking in public places	C-7-1/ 必12-ウ	〃
11	6/26		Review (5-6)	C-7-1/ 必12-ウ	〃
12	7/3		Review Test (5-6)	C-7-1/ 必12-ウ	〃
13	7/10	Unit 7	Euthanasia	C-7-1/ 必12-ウ	〃
14	7/17		Review(7)	C-7-1/ 必12-ウ	〃
15	7/24		Review (1-7)	C-7-1/ 必12-ウ	〃
16	9/3	Unit 8	Corporal punishment	C-7-1/ 必12-ウ	〃
17	9/10	Unit 9	Grade-skipping	C-7-1/ 必12-ウ	〃
18	9/17		Review (8-9)	C-7-1/ 必12-ウ	〃
19	9/24		Review Test (8-9)	C-7-1/ 必12-ウ	〃
20	10/1	Unit 10	The performance-based pay system	C-7-1/ 必12-ウ	〃
21	10/8	Unit 11	The TPP	C-7-1/ 必12-ウ	〃
22	10/15		Review (10-11)	C-7-1/ 必12-ウ	〃
23	10/22		Review Test (10-11)	C-7-1/ 必12-ウ	〃
24	10/29	Unit 12	Animal Testing	C-7-1/ 必12-ウ	〃
25	11/5	Unit 13	Revising Article 9	C-7-1/ 必12-ウ	〃
26	11/12		Review (12-13)	C-7-1/ 必12-ウ	〃
27	11/19		Review Test (12-13)	C-7-1/ 必12-ウ	〃
28	11/26	Unit 14	Capital punishment	C-7-1/ 必12-ウ	〃
29	12/3		Review(14)	C-7-1/ 必12-ウ	〃
30	12/10		Review (8-14)	C-7-1/ 必12-ウ	〃

## 心理学 (前期・1単位)

D①②A-a1-1109(D1109)

科目責任者：佐藤 歩 (心理・講師)

科目担当者：①佐藤 歩 (心理)

※この科目は、公認心理師である教員が担当する

### 1. 科目の概要

心理学はその対象となる人間存在の複雑さや曖昧さ、多様性をそのまま引き受けざるを得ず、一義的・一般的知見を抽出しにくいという学問でもある。本講義では心理学の基本的な立場を通して、人間理解の特性を学習する。また歯科医療との摺り合わせを鑑み、臨床家として他者を理解・援助するにあたっての心理学的な手がかりや方法を探る。そして心理テスト等を通し、自己理解が他者理解・援助と相即することを学ぶ。

### 2. 一般目標

まず、心理学の代表的な理論や人間理解の方法について説明するために、心の探究の歴史を理解する。続いて、悩みを抱える人の心理ならびにその援助法にあたり、医療従事者として配慮すべきことを考えるために、心理学を習得する。

### 3. 到達目標

- 1) 現代における心の問題を述べられる。
- 2) 心理学の基本的な立場を説明できる。
- 3) 性格を分類できる。
- 4) 心身症、歯科心身症を説明できる。
- 5) 心の援助(事例読解)を実施できる。

### 4. 履修の進め方

講義形式でスライドとプリントを使用して履修する。

### 5. 準備学修

予習：シラバスにて次回講義内容箇所を確認し、予め関連する内容について参考書を熟読しておくこと(30分)。

復習：重要箇所をプリントで確認し、質問等があれば、積極的にオフィスアワーを利用すること(30分)。

### 6. 評価方法

定期試験(本試験・追試験・再試験)で65点以上の者を合格とする。全授業範囲を記述、選択式で実施する。

### 7. 教本

なし。下記参考書と、毎回科目担当者がプリントを配布する。

### 8. 参考書

ベーシック心理学 第2版 二宮克美編著 医歯薬出版

### 9. 授業内容と日程

(コ：コアカリ記号, 国：国家試験出題基準, 担：担当教員)

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	4/9	オリエンテーション	講義の主題と進行について		①
2	4/16	心の声を聴く	カウンセリングの技法	D-2-1)/ 総VII-9-コ	〃
3	4/23	現代における心の問題①	虐待の分類と対応	D-5-6), D-5-7)/ 総I-2-アg	〃
4	5/7	現代における心の問題②	依存症	D-5-9)/ 必6-アj	〃
5	5/14	現代における心の問題③	アダルトチルドレン	A-2-2)/ 必6-アj	〃
6	5/21	心理学の基本的な立場①	行動療法および認知療法(認知行動療法)	D-5-9)/ 総VII-9コ	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
7	5/28	心理学の基本的な立場②	行動療法および認知療法(認知行動療法)	D-5-9) / 総Ⅶ-9コ	①
8	6/4	臨床心理学入門①	精神医学と主な精神疾患	D-5-9) / 各Ⅲ-シef	〃
9	6/11	臨床心理学入門②	心身症と歯科心身症	D-5-9) / 各Ⅲ-ソb	〃
10	6/18	心の発達①	発達課題と危機(幼年期)	A-2-2) / 必5-イab	〃
11	6/25	心の発達②	発達課題と危機(青年期)	A-2-2) / 必5-イab	〃
12	7/2	心の発達③	発達課題と危機(成人期および高齢期)	A-2-2) / 必5-イab	〃
13	7/9	性格とその把握①	性格の分類と測定法	D-5-9) / 総Ⅱ-7イc	〃
14	7/16	性格とその把握②	エゴグラムの活用	D-5-9) / 総Ⅱ-7イc	〃
15	7/23	心の援助の実際	事例読解	D-5-9) / 総Ⅶ9-コ	〃

## 経営学(後期・1単位)

D②A-a1-1110(D1110)

科目責任者:長峯 英樹(英語・講師)

科目担当者:①長峯 英樹(英語)

※この科目は、一般企業勤務経験のある教員が担当する

### 1. 科目の概要

本講義では、将来、経営や組織運営に関する課題に直面した時に、個人的な経験や直感のみに頼るのではなく、様々な企業の事例や経営学的な思考をもとに論理的に分析・考察できる基礎スキルを身につけることを目的としている。

### 2. 一般目標

多様な業界における注目企業の事例を学ぶことにより、企業経営に興味をもつことが第一の目標である。

### 3. 到達目標

- 1) 基礎的なフレームワークおよびビジネスモデルの概要が理解できる。
- 2) 固定観念や思い込みにとらわれない独自の視点を示すことができる。
- 3) 将来的な経営イメージ構築のために、日常的に経営関連の書籍や文献を読み、新たな視点を発見し続けることができる。

### 4. 履修の進め方

いくつかの企業事例を取り上げ、理論やフレームワークを通して考察・分析する。単なる講義形式に終始することなく、各設定テーマに関する分析と議論をグループワークや発表を通じて深めていく。当科目では学生の積極的な発言や議論を歓迎する。

### 5. 準備学修

<予習>

シラバスで次回講義内容を確認し、論点や質問事項などを整理しておく(60分)

<復習>

講義で学んだフレームワークや企業戦略が歯科業界に応用できないか考察してみる(30分)

<その他>

講義で取り上げた企業の商品やサービスを実際に体験したり、新聞や雑誌、経営書を読んだり、日常的に経営に関する知識と考察を深めてほしい。

### 6. 評価方法

後定期試験(80%)、課題提出(10%)、グループによる事例研究発表(10%)の合計により評価し、100点満点中65点以上を合格とする。

### 7. 教本

なし。毎回の講義で関連テーマの資料や記事・レポートなどを配布する。

### 8. 参考書

なし

### 9. 授業内容と日程

(コ:コアカリ記号, 国:国家試験出題基準, 担:担当教員)

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	9/4	イントロダクション	経営学で学ぶこと		①
2	9/11	事業アイデア1	事業構想		〃
3	9/18	事業アイデア2	事業構想の検証-採算性の観点から		〃
4	9/25	イノベーション1	イノベーションとは		〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
5	10/2	イノベーション2	イノベーションのジレンマ		①
6	10/9	分析視点1	成長企業の収益モデル		〃
7	10/16	分析視点2	市場環境分析		〃
8	10/23	分析視点3	想定顧客と課題仮説		〃
9	10/30	分析視点4	独自の価値提案とソリューション		〃
10	11/6	分析視点5	利益の創出と事業拡大に向けた再投資		〃
11	11/13	グループワーク1	事例研究1		〃
12	11/20	グループワーク2	事例研究2		〃
13	11/27	グループワーク3	事例研究発表1		〃
14	12/4	グループワーク4	事例研究発表2		〃
15	12/11	考察	経営理論をいかに歯科医療分野に活用するか		〃

## 日本語学 I (通年・4単位)

D②A-a4-1111(D1111)

科目責任者：本多 真史 (日本語・講師)

科目担当者：①本多 真史 (日本語)

### 1. 科目の概要

「高度な専門知識と技術を備えた人間性豊かな歯科医師になる」ため、「大学で何を学ぶべきなのか」を理解し、歯学の学びに欠かせない知識・姿勢の他、倫理観をも養成しつつ、他者とのコミュニケーションが円滑にいくような技能を修得する。また、文章を正確に読み・書き、他者の意見をきちんと理解し、自らの考えを整理し、それを正しく・わかりやすく伝えることができるようにする。様々な角度から「日本語について」学び、歯学の専門学習の基礎となる日本語運用能力を養う。

### 2. 一般目標

「大学で学ぶ」ことに必要な、「読む、聞く、話す、書く、考える」の基本姿勢、知識、技能を身につける。また、図書館利用術や書籍・論文・資料の読解法といったリサーチ、プレゼンテーション技法、さらには論理的な文章・レポートの書き方の技能も身につける。加えて、日本語コミュニケーション能力、文章表現能力などを高め、上記の基本姿勢の他、まとめる力、伝える力をも向上させる。

### 3. 到達目標

- 1) 歯科医療人となるための「読む、聞く、話す、書く、考える」の基礎力を身につける。
- 2) 正確、かつ、わかりやすい日本語を用いて、説得力のある文章を作ることができる。
- 3) 論理構造を理解しつつ、書籍・論文を正確に読むことができる。
- 4) 講義及び他者の発表をきちんと聞くことができる。
- 5) 敬語を正しく使い、コミュニケーション力及びマナー力を向上させる。
- 6) 手紙、メールの正式な書き方、電話のかけ方・対応の仕方がきちんとできる。
- 7) 図書館を効果的に利用でき、情報収集能力を高める。
- 8) 歯学の専門学習に必要な「学習法」を理解できる。

### 4. 履修の進め方

- 1) 教本及び講義資料をもとに、参加型・実践形式で展開していく。
- 2) 演習形式により、各回の内容に関連した読解力の育成を随所で行う。
- 3) 各自ノートを作り、板書を適宜書き込むことを基本とする。
- 4) 口頭での重要点は、プリントや教科書への書き込みやマーキングを行う。

### 5. 準備学修

講義受講前に、シラバスで内容を確認し、それに関する事柄を理解しておくことが望ましい(所要時間10分前後)。日本語分野で培われる読解力、ならびに聞く力・読む力、考える力・思う力、話す力・書く力は、国家試験を解く際はもちろん、医療関係の仕事では必ず必要になる。そのため、講義受講後は、その内容を復習(所要時間30分前後)し、日頃から自然に実践できるように心がける。

### 6. 評価方法

定期試験(70%)、ワークシート等(30回)の提出状況及びその内容(30%)で評価し、65点以上を合格とする。試験問題は、多肢選択方式と記述式が含まれる。定期試験のフィードバックは、講義内で行う。また、ワークシート等については、点検して個人へ返却する。

## 7. 教本

『大学生のための日本語表現トレーニング・スキルアップ編』、『読解現代文必携 キーワードの卵』、『1日10分の言語力ドリル 聞く・話す』、『1日10分の言語力ドリル 読む』

## 8. 参考書

『質問力』、『質問力』の教科書』、『大学生のための社会人入門トレーニング』、『文章力の基本』、『あたりまえだけどなかなかできない敬語のルール』、『コミュニケーションの教科書』

## 9. 授業内容と日程

(コ：コアカリ記号, 国：国家試験出題基準, 担：担当教員)

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	4/10	オリエンテーション	大学で日本語を学ぶ意義を理解しよう	PR-01~06, LL-01~05, RE-01~06, CM-01~05, C-2-1, C-2-3~C-2-6, D-2-1-1-1/必-8-ウ-abcde	①
2	4/10	〃	〃	〃	〃
3	4/17	読解力向上演習(1)	「読解力」とは何かを理解しよう	PR-04, LL-01, LL-03~05, RE-01, RE-05, PS-12, CM-02, C-2-1, C-2-3~C-2-6	〃
4	4/17	自己紹介	具体的に話そう	〃	〃
5	4/24	読解力向上演習(2)	「論理的思考力」とは何かを理解しよう	〃	〃
6	4/24	大学でのノートの取り方	授業を再現できるノートを作ろう	〃	〃
7	5/8	図書館利用術	図書館の利用の仕方<基礎・実践>	〃	〃
8	5/8	〃	〃	〃	〃
9	5/15	読解力向上演習(3)	「言い換える力(同等関係整理力)」とは何かを理解しよう	PR-04, LL-01, LL-03~05, RE-01, RE-05, PS-12, CM-02, C-2-1, C-2-3~C-2-6	〃
10	5/15	読解の仕方	論文の読み方を学ぼう	〃	〃
11	5/22	読解力向上演習(4)	文章読解問題の、読み解くべき対象について理解しよう	〃	〃
12	5/22	様々な文章の読み取り方	論理的に考える力を身につけよう	〃	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
13	5/29	グループ議論1	<実践演習>議論してまとめる力を養おう	PR-01~06, LL-01~05, RE-01~06, PS-12, CM-01~05, C-1-3-1・1-3-2, C-2-1, C-2-3~C-2-7	①
14	5/29	〃	〃	〃	〃
15	6/5	読解力向上演習(5)	「読解問題における主要な設問」について理解しよう	PR-04, LL-01, LL-03~05, RE-01, RE-05, PS-12, CM-02, C-2-1, C-2-3~C-2-6	〃
16	6/5	説明のコツ	「全体⇒部分(部分⇒全体)」で説明しよう	〃	〃
17	6/12	読解力向上演習(6)	「比べる力(対比関係整理力)」とはどのようなものを理解しよう	〃	〃
18	6/12	アンケートの取り方	アンケート用紙の3大要素をおさえよう	〃	〃
19	6/19	読解力向上演習(7)	生きていく上で読解力は必要であることを理解しよう	〃	〃
20	6/19	確実なメモ	5 W 1 H でチェックしよう	〃	〃
21	6/26	読解力向上演習(8)	「分かる」とは「分ける」ことであることを知ろう	〃	〃
22	6/26	伝えるコミュニケーション	その重要性・必要性を理解しよう	〃	〃
23	7/3	読解力向上演習(9)	文章中の対比の関係を読み取ろう	〃	〃
24	7/3	資料の読み取り	表・図・グラフから情報を抽出しよう	〃	〃
25	7/10	読解力向上演習(10)	譲歩構文とは何かを理解しよう	〃	〃
26	7/10	堅実なレポートの書き方	具体的な手順体裁を身につけよう	〃	〃
27	7/17	読解力向上演習(11)	「たどる力(因果関係整理力)」とはどのようなものを理解しよう	〃	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
28	7/17	大学生になるということ	読む力・書く力・聞く力・議論する力を身につけよう〈まとめ1〉	PR-04, LL-01, LL-03~05, RE-01, RE-05, PS-12, CM-02, C-2-1, C-2-3~C-2-6	①
29	7/24	グループ議論2	〈実践演習〉議論してまとめる力を養おう	PR-01~06, LL-01~05, RE-01~06, PS-12, CM-01~05, C-1-3-1・1-3-2, C-2-1, C-2-3~C-2-7	〃
30	7/24	〃	〃	〃	〃
31	9/6	読解力向上演習(12)	主張・具体例を見分けられるようになるろう	PR-04, LL-01, LL-03~05, RE-01, RE-05, PS-12, CM-02, C-2-1, C-2-3~C-2-6	〃
32	9/6	メールの書き方	依頼メールの基本を学ぼう	〃	〃
33	9/13	読解力向上演習(13)	理由説明について学ぼう	〃	〃
34	9/13	敬語基礎	基本ルールをマスターしよう	〃	〃
35	9/20	読解力向上演習(14)	指示語についての理解を深めよう	〃	〃
36	9/20	履歴書の書き方	しっかりとした履歴書を書こう	〃	〃
37	9/27	読解力向上演習(15)	「要点把握の仕方」について学ぼう	〃	〃
38	9/27	面接の受け方	質問内容を予想して準備しよう	〃	〃
39	10/4	読解力向上演習(16)	複数の該当箇所のもとめ方について学ぼう	〃	〃
40	10/4	手紙の書き方	書式とマナーの基本を身につけよう	〃	〃
41	10/11	読解力向上演習(17)	要点の抜き取り方について学ぼう	〃	〃
42	10/11	電話の応対	電話のかけ方・受け方・アポのとり方を身につけよう	〃	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
43	10/18	グループ討論3	〈実践演習〉議論してまとめる力を養おう	PR-01~06, LL-01~05, RE-01~06, PS-12, CM-01~05, C-1-3-1・1-3-2, C-2-1, C-2-3~C-2-7	①
44	10/18	〃	〃	〃	〃
45	10/25	読解力向上演習(18)	段落区分について学ぼう	PR-04, LL-01, LL-03~05, RE-01, RE-05, PS-12, CM-02, C-2-1, C-2-3~C-2-6	〃
46	10/25	要約の仕方	文章の構成を考えよう	〃	〃
47	11/1	読解力向上演習(19)	要旨の整理とまとめ方について学ぼう	〃	〃
48	11/1	相手を納得させるコツ	説得力のある文章の書き方を身につけよう	〃	〃
49	11/8	読解力向上演習(20)	主張・理由・具体例のつかみ方について学ぼう	〃	〃
50	11/8	効果的なプレゼンテーション	レジュメ・視覚資料を作成しよう	〃	〃
51	11/15	読解力向上演習(21)	要旨を読み取ろう	〃	〃
52	11/15	ディベートの仕方	総合的な力を身につけよう	〃	〃
53	11/22	読解力向上演習(22)	主張・理由・具体例が区別しにくい文章に触れよう	〃	〃
54	11/22	(小)論文の書き方	予め型を決めておこう(卒業論文を含む)	〃	〃
55	11/29	歯科医療人になるということ	歯科医師に必要な能力を理解しよう〈まとめ2〉	〃	〃
56	11/29	〃	〃	〃	〃
57	12/6	グループ討論4	〈実践演習〉討論して総合的な力を養おう	PR-01~06, LL-01~05, RE-01~06, PS-12, CM-01~05, C-1-3-1・1-3-2, C-2-1, C-2-3~C-2-7	〃
58	12/6	〃	〃	〃	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
59	12/13	グループ討論 5	〈実践演習〉 討論して総合的な力を養おう	PR-01~06, LL-01~05, RE-01~06, PS-12, CM-01~05, C-1-3-1・ 1-3-2, C-2-1, C-2-3~C-2-7	①
60	12/13	〃	〃	〃	〃

## 医療倫理学（後期・1単位）

D①②③A-a1-1202(D1202)

科目責任者：長岡 正博（薬理・講師）

科目担当者：①長岡 正博（薬理）

※この科目は、診療経験のある歯科医師が担当する

### 1. 科目の概要

医療倫理学は、医師・歯科医師など、医療の担い手と医療の受け手である患者との関係の在り方とその関係を良好に保つためのルールを学ぶ学問であり、またその基盤となる人間の道徳的・倫理的・法的規範についての問題意識を養うことを目的とした学問である。医療はそもそもの始まりから「倫理」すなわち「人間同士がお互い相手のことを考えて自分を律するルール」と一体となり行われてきたため、倫理と切り離しては成立しない。講義の各単元は相互に密接に関連しており、独立したものではないため、単なる暗記物ではあってはならず、しっかり理解した上で問題意識を持ちながら臨み学ぶことが必要である。

### 2. 一般目標

医療行為の特殊性から、歯科医師はその職業固有かつ道徳的な規範と自律倫理が求められることを理解し、全ての医療従事者の職業上の義務と社会における医療のあり方について検討し、問題解決のための具体的指針を習得する。

### 3. 到達目標

- 1) 倫理学について概説できる。
- 2) 医療倫理とは何かについて説明できる。
- 3) 医療倫理に関する規範とバイオエシックスについて説明できる。
- 4) 現代医療の倫理問題について説明できる。

### 4. 履修の進め方

講義形式で板書およびスライドと資料を使用して履修する。

### 5. 準備学修

予 習：新聞等から医療に関わる社会情勢や社会問題について考えること。(30分)

復 習：講義内容の資料を復習しておくこと。(30分)

### 6. 評価方法

定期試験（本試験）で65点以上を合格とする。再試験は希望者を対象に、必要に応じ実施する。全授業範囲を記述式で実施する。

### 7. 教本

なし

### 8. 参考書

関東医学哲学倫理学会 編 医療倫理 Q & A（新版）太陽出版

### 9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	9/4	なぜ医療倫理学を学ぶか	医療倫理概論 歯科医師に求められる医療倫理	PR-1, 2/ 必1-ア-a	①
2	9/11	倫理学とは何か①	倫理とは何か, 倫理の原理, 倫理的行為の原則	GE-1/ 必1-ア-a	〃
3	9/18	倫理学とは何か②	法と倫理の成り立ち, 法と倫理・倫理と道徳の関係	GE-2/ 必1-ア-a	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
4	9/25	生命・医療倫理①	バイオエシックスの誕生, 生命・医療倫理の相違	C-1-1-1/ 必1-ア-a, b	①
5	10/2	生命・医療倫理②	医の倫理の変遷, パターナリズム	C-1-2-1/ 必1-ア-a, b	〃
6	10/9	生命・医療倫理③	人を対象とする医学研究の倫理規範・死に関する声明	C-1-1-5/ 必2-エ-a, b	〃
7	10/16	患者中心の医療①	患者の権利	C-1-1-1/ 必1-ア-a	〃
8	10/23	患者中心の医療②	インフォームド・コンセント①	C-1-1-4/ 必1-イ-a	〃
9	10/30	患者中心の医療③	インフォームド・コンセント②	C-1-1-4/ 必1-イ-a	〃
10	11/6	医療面接①	医療面接の目的・基本	D-2-1/ 必8-ウ-a	〃
11	11/13	医療面接②	医療面接の技法	D-2-1/ 必8-ウ-a	〃
12	11/20	現代医療の倫理問題①	人の権利はいつから生じるか, 脳死と臓器移植	C-1-1-2/ 総Ⅲ-3-ア, イ	〃
13	11/27	現代医療の倫理問題②	告知するための条件, 末期患者の苦痛と心理	C-1-1-2/ 総Ⅶ-5-ア, イ	〃
14	12/4	現代医療の倫理問題③	ターミナルケアとランディング	C-1-3-6/ 総Ⅶ-5-ア, イ	〃
15	12/11	現代医療の倫理問題④	ケーススタディ	GE-4/ 必2-カ-a, b	〃

## 基礎物理学 (通年・4単位)

D③A-a4-1301(D1301)

科目責任者: 荒木 威 (物理・講師)

科目担当者: ①荒木 威 (物理)

### 1. 科目の概要

基礎物理学では歯学部学生にとって物理学が身近に感じられるように授業を進めていきます。一般教養としての物理学だけでなく、歯科医師を目指す学生にとって必須な内容を多く含みます。例えば、身体動作の力学的な理解、材料の熱的性質、X線のエネルギー、放射性崩壊現象の基本的性質などについて学びます。また演習問題を通じて、暗記だけに頼らず論理的な思考に基づき問題解決を図る習慣を養います。

### 2. 一般目標

的確な病態解析と適切な治療計画の立案を行うための基礎づくりとして以下を目標とする。

- ・物理学の基本的な知識を身に付ける。
- ・医学や歯学に関連する物理学の知識を身に付ける。
- ・論理的思考に基づいた問題解決能力を養う。

### 3. 到達目標

- ・力の性質が理解できる。
- ・運動とエネルギーの関係が理解できる。
- ・エネルギーと熱の関係が理解できる。
- ・X線と放射線の基本的な性質が理解できる。
- ・初等関数を含んだ基本的な計算ができる。

### 4. 履修の進め方

前半にプロジェクターを用いて解説を行い、後半に演習問題を通じて理解を深める。解説に用いるスライドと演習問題・解答はすべてユニバーサル・パスポート上で公開する。

### 5. 準備学修

- ・前回行った演習の自己採点を行う (30分)。
- ・前回の講義スライドを読んで内容を復習する (30分)。
- ・次回の講義スライドを読んで内容を予習する (30分)。

### 6. 評価方法

課題提出 (20点)、中間試験 (40点)、定期試験 (40点) に基づき、前期と後期それぞれ100点満点で評価し、前期と後期の平均点を最終評価とする。最終評価が65点以上を合格とする。課題には提出期限を設け、提出期限を過ぎた課題は0点とする。

最終評価において65点未満の者に対して、願い出に応じて学年末に再試験を行う。再試験において正解率65%以上を合格とする。ただし再試験対象外の者との公平性を期すため、再試験合格者の最終評価は65点とする。

疾病その他やむを得ない理由により中間試験または定期試験を欠席した者に対して、願い出に応じて追試験を行う。やむを得ない理由であったことを鑑み、追試験は中間試験・定期試験と同じく40点満点で評価する。

試験は全て筆記試験であり、選択問題、計算問題、記述問題で構成される。中間試験は月曜日1限に行い、前期は6月下旬～7月上旬、後期は10月下旬～11月上旬に実施する。正確な日にちは追って連絡する。

講義や試験に関する連絡事項、およびフィードバックはすべてユニバーサル・パスポート上で行う。

### 7. 教本

なし。必要な資料は毎回配布する。

### 8. 参考書

- ・高校で使用していた物理学の教科書
- ・医療系のための物理学入門, 木下順二, 講談社
- ・医歯系の物理学, 赤野松太郎・鮎川武二・藤城敏幸・村田治, 東京教学社

### 9. 授業内容と日程

(コ：コアカリ記号, 国：国家試験出題基準, 担：担当教員)

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	4/11	ガイダンス	授業の進め方と目標		①
2	4/11		物理学の意義		〃
3	4/18	物理数学 1	ベクトルと三角比①	RE-02/ 必12-イ	〃
4	4/18		ベクトルと三角比②	PS-12, C-2-4/ 必12-イ	〃
5	4/25	力学	身の回りの力①	B-1-1/ 必12-イ	〃
6	4/25		身の回りの力②	PS-12, C-2-4/ 必12-イ	〃
7	5/9		力の合成と釣り合い①	B-1-1/ 必12-イ	〃
8	5/9		力の合成と釣り合い②	PS-12, C-2-4/ 必12-イ	〃
9	5/16		力のベクトル表示①	B-1-1/ 必12-イ	〃
10	5/16		力のベクトル表示②	PS-12, C-2-4/ 必12-イ	〃
11	5/23		骨格筋の釣り合い①	B-1-1/ 必12-イ	〃
12	5/23		骨格筋の釣り合い②	PS-12, C-2-4/ 必12-イ	〃
13	5/30		力のモーメントと回転①	B-1-1/ 必12-イ	〃
14	5/30		力のモーメントと回転②	PS-12, C-2-4/ 必12-イ	〃
15	6/6		人体におけるテコ①	B-1-1/ 必12-イ	〃
16	6/6		人体におけるテコ②	PS-12, C-2-4/ 必12-イ	〃
17	6/13		重心と人体の安定性①	B-1-1/ 必12-イ	〃
18	6/13		重心と人体の安定性②	PS-12, C-2-4/ 必12-イ	〃
19	6/20		1次元の運動①	B-1-1/ 必12-イ	〃
20	6/20		1次元の運動②	PS-12, C-2-4/ 必12-イ	〃
21	6/27		運動方程式①	B-1-1/ 必12-イ	〃
22	6/27		運動方程式②	PS-12, C-2-4/ 必12-イ	〃
23	7/4		2次元の運動①	B-1-1/ 必12-イ	〃
24	7/4		2次元の運動②	PS-12, C-2-4/ 必12-イ	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
25	7/11		仕事と運動エネルギー①	B-1-1/ 必12-イ	①
26	7/11		仕事と運動エネルギー②	PS-12, C-2-4/ 必12-イ	〃
27	7/18		位置エネルギーと力学的エネルギー保存則①	B-1-1/ 必12-イ	〃
28	7/18		位置エネルギーと力学的エネルギー保存則②	PS-12, C-2-4/ 必12-イ	〃
29	7/25		非保存力の仕事と全エネルギー保存則①	B-1-1/ 必12-イ	〃
30	7/25		非保存力の仕事と全エネルギー保存則②	PS-12, C-2-4/ 必12-イ	〃
31	9/4	流体力学	液体と気体の性質①	B-1-1/ 必12-イ	〃
32	9/4		液体と気体の性質②	PS-12, C-2-4/ 必12-イ	〃
33	9/11	熱力学	熱と温度①	B-1-1/ 必12-イ	〃
34	9/11		熱と温度②	PS-12, C-2-4/ 必12-イ	〃
35	9/18		熱力学第1法則①	B-1-1/ 必12-イ	〃
36	9/18		熱力学第1法則②	PS-12, C-2-4/ 必12-イ	〃
37	9/25		理想気体の状態方程式と状態変化①	B-1-1/ 必12-イ	〃
38	9/25		理想気体の状態方程式と状態変化②	PS-12, C-2-4/ 必12-イ	〃
39	10/2		サイクルと熱機関①	B-1-1/ 必12-イ	〃
40	10/2		サイクルと熱機関②	PS-12, C-2-4/ 必12-イ	〃
41	10/9		熱力学第2法則とエントロピー①	B-1-1/ 必12-イ	〃
42	10/9		熱力学第2法則とエントロピー②	PS-12, C-2-4/ 必12-イ	〃
43	10/16	物理数学 2	指数関数と対数関数①	RE-02/ 必12-イ	〃
44	10/16		指数関数と対数関数②	PS-12, C-2-4/ 必12-イ	〃
45	10/23	振動・波動	単振動①	B-1-1/ 必12-イ	〃
46	10/23		単振動②	PS-12, C-2-4/ 必12-イ	〃



回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
47	10/30		波①	B-1-1/ 必12-イ	①
48	10/30		波②	PS-12, C-2-4/ 必12-イ	〃
49	11/6		電磁波①	B-1-1/ 必12-イ	〃
50	11/6		電磁波②	PS-12, C-2-4/ 必12-イ	〃
51	11/13		X線①	D-2-5/ 必12-イ	〃
52	11/13		X線②	PS-12, C-2-4/ 必12-イ	〃
53	11/20	原子核物理学	物質の構造①	A-1-1/ 必12-イ	〃
54	11/20		物質の構造②	PS-12, C-2-4/ 必12-イ	〃
55	11/27		原子核の崩壊 と放射線①	D-2-5/ 必12-イ	〃
56	11/27		前期の復習	PS-12, C-2-4/ 必12-イ	〃
57	12/4		核分裂と核融 合①	D-2-5/ 必12-イ	〃
58	12/4		核分裂と核融 合②	PS-12, C-2-4/ 必12-イ	〃
59	12/11	宇宙物理学	初期宇宙論	RE-02/ 必12-イ	〃
60	12/11		後期の復習	PS-12, C-2-4/ 必12-イ	〃

## 物理学実験（後期・1単位）

D③A-c1-1303(D1303)

科目責任者：菊地 尚志（物理・教授）

科目担当者：①菊地 尚志（物理）、②荒木 威（物理）

### 1. 科目の概要

物理学が対象とするのは自然そのものです。そこで起こる様々な現象を人間の理性に則して、例えば、法則と言う形に焼き直して理解するのが物理学です。しかし、現象から法則を引き出す事は、目の前で起こる現象そのままからでは多くの二次的な要素が含まれていて困難です。そこでガリレオ以来、理性が問いかける問題点を端的に表す実験を企画しそれを通して自然を眺める事で、我々は物理学を発展させてきました。実験実習の第一の目的は、物理学のそのような性格を実感する事です。さらに、歯科医師となった時に有用な物理実験を積極的に取り入れます。

### 2. 一般目標

物理学が記述している事柄が現実の自然現象を表現していることを理解するために、様々な実験を実施する。その経験を通し、将来直面する問題を理性的に判断するために、合理的に解決できる能力を養う。自分の判断、解決を理路整然と文章にまとめ、他者へ説明する能力も養う。

### 3. 到達目標

- 1) 自然現象を説明する。
- 2) 機器を正しく取り扱う。
- 3) 誤差を含む数値を処理する。
- 4) 報告書を分かり易く書く。

### 4. 履修の進め方

実験を実施する前に担当する実験について教科書で予習し安全に実験を進める。実験での測定値が妥当なものであるか確認しながら慎重に実験を進める。実験結果を、他者に分かり易く伝えることを意識して報告書にまとめる。

### 5. 準備学修

実験の割り当ては毎回変わります。終了時に次の実験の割り当てをしっかりと確認して、予習をしましょう（40分）。

### 6. 評価方法

毎回の実験を、出席し実験を行なったとき45%、提出された報告書その内容によって最大55%、全体で100%の評価をする。半期分全体の成績の総和で合否を決める。

### 7. 教本

奥羽大学歯学部物理学教室編『物理学実験』

### 8. 参考書

なし

### 9. 授業内容と日程

(コ：コアカリ記号、国：国家試験出題基準、担：担当教員)

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	9/5	重力加速度	ボルダ振り子 で重力加速度 を測る。	A-1-1,	①
2				B-1-1,	
3				D-2-5/ 必12-イ	
4	9/12	ヤング率	ユースの 装置で金属の ヤング率を測 る。	A-1-1,	〃
5				B-1-1,	
6				D-2-5/ 必12-イ	
7	9/19	ヤング率	サールの装置 で金属のヤン グ率を測る。	A-1-1,	〃
8				B-1-1,	
9				D-2-5/ 必12-イ	

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
10 11 12	9/26	液体の密度	ヘアーの装置で液体の密度を測る。	A-1-1, B-1-1, D-2-5/ 必12-イ	① ②
13 14 15	10/3	剛性率	ねじれ振り子で金属の剛性率を測る。	A-1-1, B-1-1, D-2-5/ 必12-イ	〃
16 17 18	10/10	周波数と位相差	シンクロスコープで正弦波の位相を測る。	A-1-1, B-1-1, D-2-5/ 必12-イ	〃
19 20 21	10/17	屈折率	透明な物質の屈折率を測る。	A-1-1, B-1-1, D-2-5/ 必12-イ	〃
22 23 24	10/24	半導体素子	トランジスタとダイオードの電気特性を測る。	A-1-1, B-1-1, D-2-5/ 必12-イ	〃
25 26 27	10/31	弾性率	弾性率について合同で講義する。	A-1-1, B-1-1, D-2-5/ 必12-イ	〃
28 29 30	11/7	旋光性	検糖計でショ糖の旋光性を測る。	A-1-1, B-1-1, D-2-5/ 必12-イ	〃
31 32 33	11/14	光のスペクトラム	分光器で様々な光源のスペクトラムを測る。	A-1-1, B-1-1, D-2-5/ 必12-イ	〃
34 35 36	11/21	電位	電位の空間分布を測る。	A-1-1, B-1-1, D-2-5/ 必12-イ	〃
37 38 39	11/28	電気抵抗	金属の電気抵抗を測る。	A-1-1, B-1-1, D-2-5/ 必12-イ	〃
40 41 42	12/5	電気抵抗	溶液の電気抵抗を測る。	A-1-1, B-1-1, D-2-5/ 必12-イ	〃
43 44 45	12/12	熱の仕事等量	ニクロム線の電力のジュール熱への変換を測る。	A-1-1, B-1-1, D-2-5/ 必12-イ	〃

## 基礎化学 (通年・4単位)

D③A-a4-1304(D1304)

科目責任者：斎藤昇太郎 (化学・講師)

科目担当者：①斎藤昇太郎 (化学)

### 1. 科目の概要

化学は生活や産業・医療と密接な関連があり、歯学においても基本的な知識として身につけることが求められます。化学を学修していない方にも理解しやすいように、身の回りの現象や物質などの例をあげながら、大学の化学として入門・基礎的な事項を中心に講義を行います。

### 2. 一般目標

自然科学の基本である化学を学修することで、科学への興味・理解を深める。教養としてだけでなく、生命科学分野の知識を得ることで、基礎系科目・臨床系科目の理解・修得のために必要な知識・計算技術、および物質の構造や名称・性質を理解し説明できるようにする。

### 3. 到達目標

- 1) 原子構造を理解し、元素名、元素記号、原子番号を記述できる。
- 2) 重要な化合物の構造式と名称、性質を理解し記述・説明できる。
- 3) 基本的な化学反応を記述・説明できる。
- 4) 例題・演習を通して計算問題を解くことができる。
- 5) IUPAC 命名法を理解し、構造式から有機化合物名を、有機化合物名から構造式を記述できる。
- 6) 生体関連物質の構造や名称を示すことができる。

### 4. 履修の進め方

講義の内容は概ね教科書に沿って進めますが、教科書に記載されていない重要な内容も解説しますので復習は重要です。講義中の演習あるいは課題により、学習が不足している要素の把握、および総合的な理解を促します。

### 5. 準備学修

講義前に教科書を読み、用語や概要を確認し、「自分が知らないこと」を把握しておくこと。(20分)

講義後は配布される課題等を活用し、講義内容を十分に復習の上、「予習時に自分が知らなかったこと」を理解できたか確認すること。(60分)

### 6. 評価方法

定期試験 (80%, いずれも筆記) および提出物 (20%) で評価し、65点以上で合格とする。フィードバックとして、提出物は採点して返却する。

### 7. 教本

前期: Molly M.Bloomfield 著 伊藤俊洋 他訳「生命科学のための基礎化学－無機物理化学編」丸善出版  
後期: Molly M.Bloomfield 著 伊藤俊洋 他訳「生命科学のための基礎化学－有機・生化学編」丸善出版

### 8. 参考書

<初学者向け>

青野貴行 著 「大学生のための やさしい化学入門」化学同人

小島一光 著 「基礎固め 化学」 化学同人

野島高彦 著 「医療・看護系のための やさしく学べる化学」 裳華房

齋藤勝裕 他 著 「メディカル化学」 裳華房

岡崎三代, 奈良雅之 著 「臨床検査学講座 化学」 医歯薬出版

<既学者向け>

原田義也 著 「生命科学のための基礎化学」・「生命科学のための有機化学 I・II」 東京大学出版会

### 9. 授業内容と日程

(コ：コアカリ記号, 国：国家試験出題基準, 担：担当教員)

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	4/9	ガイダンス	講義の内容と進め方について, 化学の概説	A-1-1/必12-イ	①
2	4/9	物質の分類と性質	組成と種類, 定義	A-1-1/必12-イ	〃
3	4/16	測定(1)	精確さと誤差有効数字	A-1-1/必12-イ	〃
4	4/16	測定(2)	換算とSI単位系	A-1-1/必12-イ	〃
5	4/23	エネルギー(1)	定義と種類	A-1-1/必12-イ	〃
6	4/23	エネルギー(2)	保存則, エントロピー	A-1-1/必12-イ	〃
7	5/7	原子の構造	原子の構成要素と原子番号	A-1-1/必12-イ	〃
8	5/7	電子配置	化学的性質との関連	A-1-1/必12-イ	〃
9	5/14	周期表	周期表の見方と重要性	A-1-1/必12-イ	〃
10	5/14	生命元素	生命活動と微量元素	A-1-1/必12-イ	〃
11	5/21	化学結合	イオン結合, 共有結合	A-1-1/必12-イ	〃
12	5/21	電気陰性度	極性と非極性水素結合	A-1-1/必12-イ	〃
13	5/28	化学反応式	基本的な化合物と反応	A-1-1/必12-イ	〃
14	5/28	酸化と還元	酸化還元反応とイオン化	A-1-1/必12-イ	〃
15	6/4	モル	アボガドロ数とモルの概念	A-1-1/必12-イ	〃
16	6/4	モル計算	モル計算の演習	A-1-1/必12-イ	〃
17	6/11	物質の状態と変化	物質の三態と運動量	A-1-1/必12-イ	〃
18	6/11	気体	圧力と理想気体の法則	A-1-1/必12-イ	〃
19	6/18	放射能(1)	放射線と半減期	A-1-1), D-2-5)/必9-カ, 必12-イ, 総VI-2-ア	〃
20	6/18	放射能(2)	身近な放射能と生物への影響	A-1-1), D-2-5)/必9-カ, 必12-イ, 総VI-2-ア	〃
21	6/25	反応速度	エネルギーと反応速度の変化	A-1-1/必12-イ	〃
22	6/25	化学平衡	ルシャトリエの原理	A-1-1/必12-イ	〃
23	7/2	コロイド	界面活性剤と性質	A-1-1/必12-イ	〃
24	7/2	溶質・溶媒・溶液	電解質と非電解質	A-1-1/必12-イ	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
25	7/9	濃度(1)	%, モル濃度当量	A-1-1/必12-イ	①
26	7/9	濃度(2)	濃度計算の演習	A-1-1/必12-イ	〃
27	7/16	酸と塩基(1)	定義と pH	A-1-1/必12-イ	〃
28	7/16	酸と塩基(2)	pH の計算, 脱灰と再石灰化	A-1-1/必12-イ, 各II-1-ア	〃
29	7/23	酸と塩基(3)	中和反応と滴定, 緩衝溶液	A-1-1/必12-イ	〃
30	7/23	前期の復習	演習	A-1-1), D-2-5)/必9-カ, 必12-イ, 総VI-2-ア	〃
31	9/3	前期試験の講評	解説と要点の確認	A-1-1), D-2-5)/必9-カ, 必12-イ, 総VI-2-ア	〃
32	9/3	有機化合物	炭素原子の特性と構造式の示し方	A-1-1/必12-イ	〃
33	9/10	飽和炭化水素(1)	アルカン	A-1-1/必12-イ	〃
34	9/10	飽和炭化水素(2)	炭素骨格, 構造異性体	A-1-1/必12-イ	〃
35	9/17	不飽和炭化水素(1)	アルケン・アルキン	A-1-1/必12-イ	〃
36	9/17	不飽和炭化水素(2)	シス・トランス異性体	A-1-1/必12-イ	〃
37	9/24	環式炭化水素(1)	シクロ化合物	A-1-1/必12-イ	〃
38	9/24	環式炭化水素(2)	立体異性体と表記	A-1-1/必12-イ	〃
39	10/1	芳香族炭化水素	ベンゼン置換体	A-1-1/必12-イ	〃
40	10/1	有機演習(1)	炭化水素の命名・構造と性質の確認	A-1-1/必12-イ	〃
41	10/8	含酸素有機化合物(1)	アルコール	A-1-1/必12-イ	〃
42	10/8	含酸素有機化合物(2)	エーテル	A-1-1/必12-イ	〃
43	10/15	含酸素有機化合物(3)	アルデヒドとケトン	A-1-1/必12-イ	〃
44	10/15	含酸素有機化合物(4)	カルボン酸	A-1-1/必12-イ	〃
45	10/22	含酸素有機化合物(5)	エステル	A-1-1/必12-イ	〃
46	10/22	有機演習(2)	含酸素有機化合物の命名・構造と性質の確認	A-1-1/必12-イ	〃
47	10/29	含窒素有機化合物(1)	アミンとイミン	A-1-1/必12-イ	〃
48	10/29	含窒素有機化合物(2)	アミドとイミド	A-1-1/必12-イ	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
49	11/5	含窒素有機化合物(3)	複素環式化合物	A-1-1) / 必12-イ	①
50	11/5	有機演習(3)	含窒素有機化合物の命名・構造と性質の確認	A-1-1) / 必12-イ	〃
51	11/12	炭水化物(1)	単糖類の種類と構造	A-1-1), A-1-2) / 必4-ア, 必12-イ	〃
52	11/12	炭水化物(2)	不斉炭素と生理活性	A-1-1), A-1-2) / 必4-ア, 必12-イ	〃
53	11/19	炭水化物(3)	グリコシド結合と二糖類	A-1-1), A-1-2) / 必4-ア, 必12-イ	〃
54	11/19	炭水化物(4)	多糖類	A-1-1), A-1-2) / 必4-ア, 必12-イ	〃
55	11/26	脂質(1)	脂質と脂肪酸および単純脂質	A-1-1), A-1-2) / 必4-ア, 必12-イ	〃
56	11/26	脂質(2)	複合脂質と誘導脂質	A-1-1), A-1-2) / 必4-ア, 必12-イ	〃
57	12/3	タンパク質(1)	アミノ酸	A-1-1), A-1-2) / 必4-ア, 必12-イ	〃
58	12/3	タンパク質(2)	構造と変性	A-1-1), A-1-2) / 必4-ア, 必12-イ	〃
59	12/10	核酸	塩基とDNAの構造	A-1-1), A-1-3) / 必4-ア, 必12-イ	〃
60	12/10	後期の復習	演習	A-1-1), A-1-2), A-1-3) / 必4-ア, 必12-イ	〃

## 化学実験 (後期・1単位)

D③A-c1-1306(D1306)

科目責任者：阿部 匡聡 (化学・講師)

科目担当者：①阿部 匡聡 (化学), ②斎藤昇太郎 (化学)

### 1. 科目の概要

歯科医学を学んでいくうえで、生命現象や物質の変化を分子機能的に捉えていく素養を身に着けることは重要である。化学実験は、基本的な化合物について、構造・性質・反応を理解するとともに、物質の濃度を測定するしくみを理解する目的で、定量分析と有機定性分析で構成されている。定量分析では、化学反応や測定機器を利用し、試料中の目的成分の定量を行う。有機定性分析では、定性反応による化合物中の特定の官能基の検出や、生成した化合物の性質・機能の解析を行う。

### 2. 一般目標

ディプロマポリシー③病態解析と治療概念のため、

- 1) 学修者は、教本を読んで実験操作・手順を理解する。
- 2) 学修者は、定量分析・有機定性分析についての基本的知識、基本的技能を習得する。

### 3. 到達目標

- 1) 学修者は、教本に示された手順通りに、実験を行う。
- 2) 学修者は、実験器具を正しく取り扱う。
- 3) 学修者は、精密測定器具の目盛りを、正確に読み取る。
- 4) 学修者は、行った実験の過程で進行した反応を説明する。
- 5) 学修者は、得られた測定データや観察結果を、正確に記録する。
- 6) 学修者は、記録に基づいて、正確なレポートを作成する。

### 4. 履修の進め方

実験実習により進める。無機定量分析では、3～4人のグループ単位で行い、得られた数値データを整理し、各人が計算やグラフ作成を行い、結論を導き出し、レポートとして記述し、提出する。有機定性分析では、個人単位で行い、得られた観察結果について、試料として用いた化合物の構造・性質に基づいた考察を行い、レポートとして記述し、提出する。

### 5. 準備学修

基礎化学の内容を修得しておくことが望ましい。本科目の内容は、2年次で履修する化学に接続する。さらに、歯科基礎医学に関連し、特に、口腔生化学Ⅰ、Ⅱ、生体材料・歯科材料学Ⅰ、Ⅱ、歯科薬理学Ⅰ、Ⅱの履修に役立つ。

事前学習 (15分)：教本の、当該項目のページを読み、実験操作の流れを把握し、記録すべき事柄チェックしておく。

事後学習 (45分)：実験ノートに書いたデータ、観察結果を用いて、レポートを作成する。

### 6. 評価方法

提出物 (レポート、実験ノートおよび演習課題) の評価 (90%)、実習態度 (集合時間厳守、共同実験参加、携行品、着用品) (10%) で評価し、65点以上で合格とする。

### 7. 教本

奥羽大学歯学部生体材料学講座化学分野編「化学実験テキスト」および配布プリント

### 8. 参考書

基礎化学の講義で使用する教科書

化学同人編集部 編「実験を安全に行うために」化学同人

9. 授業内容と日程

(コ：コアカリ記号, 国：国家試験出題基準, 担：担当教員)

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1 2 3	9/6	ガイダンス	化学実験の概要；化学実験での注意事項	A-1-1/ 必12-イ	① ②
4 5 6	9/13	実験準備-1： 有機定性分析	有機定性分析の概要；器具の確認，取り扱いの練習	A-1-1/ 必12-イ	ク
7 8 9	9/20	炭化水素の反応	アルケンの臭素化；バイヤー試験；ベンゼンのニトロ化，スルホン化	A-1-1/ 必12-イ	ク
10 11 12	9/27	アルコールの反応	アルコールの酸化，脱水，エステル化；ルーカス試験；ヨードホルム反応	A-1-1/ 必12-イ	ク
13 14 15	10/4	フェノール類の反応	フェノールのアルカリに対する溶解性；フェノール類の臭素化，エステル化，塩化鉄（Ⅲ）反応；フェノールフタレインの生成と性質	A-1-1/ 必12-イ	ク
16 17 18	10/11	アルデヒドおよびケトンの反応	アルデヒド・ケトンのフェーリング反応，銀鏡反応，2,4-ジニトロフェニルヒドラジンとの反応；ベンズアルデヒドの酸化	A-1-1/ 必12-イ	ク
19 20 21	10/18	アミンの反応	アミンの塩基性；アミン塩酸塩の溶解性；カルボン酸アミドの生成；アリザリンイエローRの生成と性質；バラレッドの生成と染色	A-1-1/ 必12-イ	ク
22 23 24	10/25	糖質の反応	モーリッシュ反応；バーフォード反応；セリワノフ反応；フェーリング反応；ヨウ素・デンプン反応	A-1-1, A-1-2/ 必4-ア, 必12-イ	ク

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
25 26 27	11/1	実験準備-2： 定量分析	定量分析の概要；実験器具取り扱い練習（1）	A-1-1/ 必12-イ	① ②
28 29 30	11/8	実験準備-2： 定量分析	定量分析の概要；実験器具取り扱い練習（2）	A-1-1/ 必12-イ	ク
31 32 33	11/15	中和滴定	水酸化ナトリウム水溶液の標定；塩酸の標定（1）	A-1-1/ 必12-イ	ク
34 35 36	11/22	中和滴定	水酸化ナトリウム水溶液の標定；塩酸の標定（2）	A-1-1/ 必12-イ	ク
37 38 39	11/29	キレート滴定	Ca <sup>2+</sup> ，Mg <sup>2+</sup> 混合溶液の分別定量（1）	A-1-1/ 必12-イ	ク
40 41 42	12/6	キレート滴定	Ca <sup>2+</sup> ，Mg <sup>2+</sup> 混合溶液の分別定量（2）	A-1-1/ 必12-イ	ク
43 44 45	12/13	演習	化学実験の内容全般についての演習	A-1-1, A-1-2/ 必4-ア, 必12-イ	ク

# 基礎生物学（通年・4単位）

D③A-a4-1307(D1307)

科目責任者：今井 元（生物・准教授）

科目担当者：① 今井 元（生物）

※この科目は、診療経験のある歯科医師が担当する

## 1. 科目の概要

歯科医師を目指す学生は、物質の科学を基礎として、生体の構成要素である細胞、細胞によって構成された個体の機能を理解し、生物がどのように地球上で進化適応してきたか、現在どのような相互関係にあるかを修得する必要がある。本科目では、生命体の基本となる個体の階層性「細胞→組織→器官→器官系→個体」及び「その構造と機能」を歯学教育で行う系統的な体系（解剖生理学的体系）の中で理解し、さらに、「発生過程」「進化過程」などを学ぶことにより、長期記憶を形成する。履修方法は、学習効果ピラミッドに準じて行う。具体的には、「細胞の構造」・「脊椎動物の組織」・「刺激の受容と反応」・「体内環境の維持」・「生物の個体発生と系統発生」・「生態と行動」についての講義を聴講・理解し、各講義に対する課題（問題形式）について討議した後、課題の解答をサブノートにまとめ、教え合うことによって長期記憶を形成する。

## 2. 一般目標

「人間性豊かな歯科医師」を目指すために、初期段階として生命科学の基礎及び生物学的なものの見方・考え方を通じて、科学的にものを観察・理解をする姿勢を修得する。また、専門課程で学習する高度で専門的な知識をいれる「頭の中の引き出し（脳内コンテンツ：目次）」を確立するために、脊椎動物の「体制」と「発生」を系統的に説明できるようにする。

## 3. 到達目標

- 1) 生命体の基本となる階層性「細胞→組織→器官→器官系→個体」を説明できる。
- 2) 生物（原核生物・真核生物など）における「細胞の構造と機能」を説明できる。
- 3) 脊椎動物における「四大組織の基本構造と機能」を分類し、系統的に説明できる。
- 4) 人体の「器官・器官系の構造と機能」を分類し、その全体像を包括的に説明できる。
- 5) 「刺激の受容と反応」における、各器官の役割の全体像を説明できる。
- 6) 「体内環境の調節と恒常性の維持」における、各器官の役割の全体像を説明できる。
- 7) 脊椎動物と人体の「生殖と初期発生」について説明できる。
- 8) 脊椎動物と人体の「各器官の発生過程」について説明できる。
- 9) 脊椎動物の「進化と多様性」「生態と行動」について説明できる。

## 4. 履修の進め方

履修方法は、学習効果ピラミッドに準じて行う。講義では、講義プリントを使用して履修する。項目ごとに問題形式の課題（サブノート）を用いて形成的評価をしながら進み、サブノートを作成することで履修する。また、サブノートの問題を学生自身が討議し、教え合うことで完成し、能動的に修得する。

## 5. 準備学修

事前学習：配布プリント、および、実習で用いる教科書（得意になる解剖生理学）を復習・熟読し、高校生物学との違いを理解しておく（30分）。

事後学習：講義後にサブノートを完成し、講義内容のポイントを確認する。それによって、医療系大学における脊椎動物の体（人体と構造と機能）の全体像を理解し、2～3年次の高度で専門的な歯科基礎医学の科目（解剖学・組織学・生理学など）に備える（120分）。

## 6. 評価方法

総括的評価は、前期と後期中間試験および定期試験（計4区分）にて行う。試験の実施は、中間試験は、6月～7月（前期）、11月～12月（後期）の月曜日1限の試験枠で行い、定期試験は、学期末の試験期間（前期：8月／後期：1月）に行う。各試験の範囲は、以下の通りとする（前期中間試験：基礎生物学1～16 | 前期定期試験：基礎生物学14～30 | 後期中間試験：基礎生物27～45 | 後期定期試験：基礎生物学46～60）。追・再試験は、各区分毎に行う。各追・再試験の評価は、追試験は、100点満点とし、65点以上を合格とし、再試験は、65点以上を基本的に65点とする（ただし、本試験と再試験の平均点が65点以上になる場合、その平均点を評価点とする）。したがって、最終評価（100%）は、前期中間試験（25%）・前期定期試験（25%）・後期中間試験（25%）・後期定期試験（25%）の得点を合算して評価し、65点以上を合格とする。年度末の追・再試験は、上記4区分の総合評価が、65点未満の学生や公欠にて後期定期試験を受験できなかった学生に対して行い、65点以上を合格とする。

尚、やむを得ない理由があり（コロナ感染予防対策や生活指導委員会が認めた学生など）、試験の最終評価において、基準点を下回る学生については、試験の評価（80%）と各試験毎に提出する課題の点数（20%）を用いて、式【最終評価（点）＝試験の総合評価×0.8＋課題点×0.2】で算出し、最終評価とする場合がある。この場合も、65点以上を合格とする（ただし、課題の提出が、提出期限（各試験の実施日）より遅れた場合は、25%／日の減点となる）。

## 7. 教本

下記の教科書と参考書を基に作成した配布プリントに沿って進める。

- 1) 得意になる解剖生理学：美田誠二（著）照林社…生物学実験で購入済
- 2) ラングマン人体発生学 第11版：T.W.Sadler（著）、安田峯生（翻訳）MEDSi社

## 8. 参考書

- 1) 人体の正常構造と機能 改訂2版：坂井建雄、河合克雅 総編集 日本医事新報社
- 2) カラー図解 アメリカ版大学生物学の教科書 第1巻～第3巻：デイヴィッド・サダヴァ（著）講談社
- 3) 生物学（歯科衛生士教本）第1版：河合進次郎、高畑悟朗（著）医歯薬出版株式会社

## 9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号、国：国家試験出題基準、担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	4/11	細胞の構造と機能①	原核細胞・真核細胞	A-1-1, -4/ 必4-ア-a	①
2	4/11	細胞の構造と機能②	細胞膜・核・細胞内小器官	A-1-2, -4/ 必4-ア-b	〃
3	4/18	細胞の構造と機能③	細胞骨格・細胞外基質(1)	A-1-3, -4/ 必4-ア-c	〃
4	4/18	細胞の構造と機能④	細胞骨格・細胞外基質(2)	A-1-4, 5-/ 必4-ア-c	〃
5	4/25	細胞の構造と機能⑤	細胞分裂（体細胞分裂/減数分裂）	A-1-4, -5/ 必4-ア-a～c	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
6	4/25	細胞の構造と機能⑥	細胞周期(分裂期/分裂間期)	A-1-4,-5, A-2-3/ 必5-ア-a	①
7	5/9	脊椎動物の組織1:~上皮組織	上皮と腺の全体像と役割	A-3-1-1/ 必4-ア-d, 総II-1-ア	〃
8	5/9	脊椎動物の組織2:~結合組織1	結合(支持)組織の全体像と役割	A-3-1-2/ 必4-ア-d, g, 総II-1-ウ	〃
9	5/16	脊椎動物の組織3:~結合組織2	軟骨の全体像と役割	A-3-1-2/ 必4-ア-d, e, 総II-1-イ	〃
10	5/16	脊椎動物の組織4:~結合組織3	骨の全体像と役割	A-3-1-2/ 必4-ア-d, e, 総II-1-イ, 総II-8-ウ	〃
11	5/23	脊椎動物の組織5:~筋組織	筋の全体像と役割	A-3-1-3/ 必4-ア-d, e, 総II-1-イ	〃
12	5/23	脊椎動物の組織6:~神経組織1	神経組織と神経系の全体像と役割	A-3-1-5/ 必4-ア-d, e, 総II-1-ク	〃
13	5/30	脊椎動物の組織7:~神経組織2	末梢神経と中枢神経の構造と機能の違い	A-3-1-5/ 必4-ア-d, e, 総II-1-ク	〃
14	5/30	刺激の受容と反応1:~神経系1	神経の伝導と伝達1:静止膜電位・活動電位	A-3-1-5/ 必4-ア-d, e, 総II-1-ク	〃
15	6/6	刺激の受容と反応2:~神経系2	神経の伝導と伝達2:神経の伝導と伝達	A-3-1-5/ 必4-ア-d, e, 総II-1-ク	〃
16	6/6	刺激の受容と反応3:~神経系3	神経の伝導と伝達3:神経の興奮から効果器の作動までの流れ	A-3-1-5/ 必4-ア-d, e, 総II-1-ク	〃
17	6/13	刺激の受容と反応4:~感覚器1	感覚と感覚受容器の全体像	A-3-1-6/ 必4-ア-d, e, 総II-1-ク, 総II-6-ア	〃
18	6/13	刺激の受容と反応5:~感覚器2	体性感覚:皮膚感覚・深部感/頭頸部の感覚	A-3-1-6/ 必4-ア-d, e, 総II-1-ク, 総II-4-カ, 総II-5-ア, イ	〃
19	6/20	刺激の受容と反応6:~感覚器3	特殊感覚1:視覚1・視覚器の構造と機能の全体像	A-3-1-6/ 必4-ア-d, e, 総II-1-ク	〃
20	6/20	刺激の受容と反応7:~感覚器4	特殊感覚1:視覚2・焦点調節, 眼の保護, 眼球の動きの調節	A-3-1-6/ 必4-ア-d, e, 総II-1-ク	〃
21	6/27	刺激の受容と反応8:~感覚器5	特殊感覚2:平衡聴覚1・平衡聴覚器の構造と機能の全体像	A-3-1-6/ 必4-ア-d, e, 総II-1-ク	〃
22	6/27	刺激の受容と反応9:~感覚器6	特殊感覚2:平衡聴覚2・コルチ器, 平衡斑, 膨大部稜の構造と機能	A-3-1-6/ 必4-ア-d, e, 総II-1-ク	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
23	7/4	刺激の受容と反応10:~感覚器7	特殊感覚3:嗅覚・嗅覚器の構造と機能の全体像	A-3-1-6/ 必4-ア-d, e, 総II-1-ク, 総II-6-ア	①
24	7/4	刺激の受容と反応11:~感覚器8	特殊感覚4:味覚・味覚器の構造と機能の全体像	A-3-1-6/ 必4-ア-d, e, 総II-1-ク, 総II-6-ア	〃
25	7/11	体内環境の維持1:~内分泌系1	内分泌器の全体像と役割及び発生過程	A-3-1-9/ 必4-ア-e, 総II-1-ケ, 各III-4-ア	〃
26	7/11	体内環境の維持2:~内分泌系2	体温・血糖の調節	A-3-1-9/ 必4-ア-e, 総II-1-ケ	〃
27	7/18	体内環境の維持3:~消化器系1	消化器系の全体像と役割	A-3-1-7/ 必4-ア-e, f, 総II-1-オ, コ	〃
28	7/18	体内環境の維持4:~消化器系2	口腔・咽頭と機械的消化の概要:咀嚼・嚥下・蠕動	A-3-1-7, A-3-2~4/ 必4-ア-e, f, 総II-4-ア~カ, 総II-6-ア, エ, カ	〃
29	7/25	体内環境の維持5:~消化器系3	消化管による消化と吸収の概要:管腔内消化と膜消化	A-3-1-7/ 必4-ア-e, f, 総II-1-オ, コ	〃
30	7/25	体内環境の維持6:~消化器系4	外分泌腺:胃・肝臓・胆嚢・膵臓による消化	A-3-1-7/ 必4-ア-e, f, 総II-1-オ, コ	〃
31	9/5	体内環境の維持7:~呼吸器系1	呼吸器系の全体像と役割	A-3-1-8/ 必4-ア-e, 総II-1-エ	〃
32	9/5	体内環境の維持8:~呼吸器系2	呼吸のしくみの調節	A-3-1-8/ 必4-ア-e, 総II-1-エ	〃
33	9/12	体内環境の維持9:~泌尿器系1	泌尿器系の全体像と役割及び発生過程	A-3-1-10/ 必4-ア-e, II-1-キ	〃
34	9/12	体内環境の維持10:~泌尿器系2	濾過・再吸収・浸透圧の調節(1)	A-3-1-10/ 必4-ア-e, 総II-1-キ	〃
35	9/19	体内環境の維持11:~泌尿器系3	濾過・再吸収・浸透圧の調節(2)	A-3-1-10/ 必4-ア-e, 総II-1-キ	〃
36	9/19	体内環境の維持12:~生殖系1	生殖器の全体像と役割及び発生過程	A-3-1-11/ 必4-ア-e, 必5-ア-a, 総II-1-キ	〃
37	9/26	体内環境の維持13:~生殖系2	生殖器のホルモン調節機構	A-3-1-11/ 必4-ア-e, 必5-ア-a, 総II-1-キ	〃
38	9/26	体内環境の維持14:~循環器系1	循環器系の全体像と役割及び発生過程	A-3-1-4/ 必4-ア-e, 総II-1-ウ	〃
39	10/3	体内環境の維持15:~循環器系2	心臓と血管の役割	A-3-1-4/ 必4-ア-e, 総II-1-ウ	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
40	10/3	体内環境の維持16: ~循環器系3	心拍数の調節(刺激伝導系と心周期・心音)	A-3-1-4/ 必4-ア-e, 総II-1-ウ	①
41	10/10	体内環境の維持17: ~循環器系4	血圧の調節(神経性調節・液性調節)	A-3-1-4/ 必4-ア-e, 総II-1-ウ	〃
42	10/10	体内環境の維持18: ~血液1	血球の全体像及び造血	A-3-1-4/ 必4-ア-e, II-1-カ, 総II-3-ア	〃
43	10/17	体内環境の維持19: ~生体防御系1	赤血球・白血球・血小板の役割の概要	A-3-1-4/ 必4-ア-d, g, 総II-1-カ, 総II-3-ア~オ	〃
44	10/17	体内環境の維持20: ~生体防御系2	生体防御系の全体像自然免疫と獲得免疫	A-3-1, -4, A-4-2/ 必4-ア-g, 総II-3-ア~オ	〃
45	10/24	体内環境の維持21: ~生体防御系3	一次リンパ性器官・二次リンパ性器官	A-3-1-4, A-4-2/ 必4-ア-e, g, 総II-3-ア~オ, 総III-1-ク	〃
46	10/24	生殖と初期発生(1): ~発生学 - 総論①	生殖形成: 体細胞分裂・減数分裂	A-2-1-1~7, A-3-1-11, A-5-1/ 必5-ア-a, 必6-ア-b, 必6-イ-h, p, 各III-4-ア	〃
47	10/31	生殖と初期発生(2)-1: ~発生学 - 総論②-1	生殖器系の調節機構: 視床下部-下垂体-性腺系の役割	A-2-1-1, A-3-1-11/ 必4-ア-e, 必5-ア-a	〃
48	10/31	生殖と初期発生(3)-2: ~人体発生学 - 総論②-2	排卵~着床の過程: 排卵・受精・卵割・着床と性ホルモン	A-2-1-1, A-3-1-11/ 必4-ア-e, 必5-ア-a	〃
49	11/7	生殖と初期発生(3): ~人体発生学 - 総論③	2層性胚盤の形成: 内(部)細胞塊の分化(胚盤葉の形成)・外(部)細胞塊の分化(胎盤の形成)	A-2-1-1, A-3-1-11/ 必4-ア-e, 必5-ア-a	〃
50	11/7	生殖と初期発生(4): ~人体発生学 - 総論④	3胚葉の形成: 2層性胚盤から3層性胚盤へ	A-2-1-1, A-3-1-11/ 必5-ア-a	〃
51	11/14	生殖と初期発生(5)-1: ~人体発生学 - 総論⑤-1	3胚葉の分化運命-1: 内胚葉・中胚葉・外胚葉の分化の法則	A-2-1-1/ 必5-ア-a	〃
52	11/14	生殖と初期発生(5)-2: ~人体発生学 - 総論⑤-2	3胚葉の分化運命-2: 器官原基の形成と初期発生に関わる遺伝子	A-2-1-1/ 必5-ア-a, 総II-8-イ	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
53	11/21	器官発生と進化(1): ~人体発生学 - 各論①	頭頸部の発生: 頭頸部と内分泌腺の器官発生の概要(鰓弓・鰓溝・咽頭嚢の形成と分化の全体像)	A-2-1-2/ 総II-8-ア, 各III-4-ア	①
54	11/21	器官発生と進化(2): ~人体発生学 - 各論②	頭頸部の発生: 口腔と顔面の器官発生と先天異常の概要(第1~3鰓弓領域と前頭鼻隆起の分化)	A-2-1-2/ 総II-8-ア, 各III-1-ア	〃
55	11/28	器官発生と進化(3): ~人体発生学 - 各論③	呼吸器系の発生: 喉頭・気管・気管支・肺の器官発生の概要(第4~6鰓弓領域の分化)	A-2-1-4/ 必4-ア, 必5-ア, 総II-1-エ	〃
56	11/28	器官発生と進化(4): ~人体発生学 - 各論④	消化器系の発生: 消化管と付属器官の器官発生の概要(原始腸管と側板中胚葉の分化)	A-2-1-4/ 必4-ア, 必5-ア, 総II-1-オ, コ	〃
57	12/5	器官発生と進化(5): ~人体発生学 - 各論⑤	泌尿器系の発生: 腎臓・尿管・膀胱・尿道の器官発生の概要(中間中胚葉と排泄腔の分化)	A-2-1-4/ 必4-ア, 必5-ア, 総II-1-キ	〃
58	12/5	器官発生と進化(6): ~人体発生学 - 各論⑥	生殖器系の発生: 生殖器系の器官発生の概要(男性と女性の構造的性分化のしくみ)	A-2-1-4/ 必4-ア, 必5-ア, 総II-1-キ	〃
59	12/12	器官発生と進化(7)-1: ~人体発生学 - 各論⑦-1	神経系の発生-1: 中枢神経系の器官発生の概要(神経管の分化)	A-2-1-4/ 必4-ア, 必5-ア-a, 総II-1-キ	〃
60	12/12	器官発生と進化(7)-2: ~人体発生学 - 各論⑦-2	神経系の発生-2: 末梢神経系の器官発生の概要(神経堤と外胚葉性プラコードの分化)	A-2-1-4/ 必4-ア, 必5-ア, 総II-1-ク	〃



# 生物学実験（前期・1単位）

D③A-cl-1309(D1309)

科目責任者：今井 元（生物・准教授）

科目担当者：①今井 元（生物）、②前田 豊信（生化）、  
③古山 昭（生理）

※この科目は、主に診療経験のある歯科医師が担当する

## 1. 科目の概要

生命体の基本単位である細胞は、それぞれ様々な細胞小器官（オルガネラ）から構成されている。さらに、細胞が機能的な集団をなし組織系となり、その組織系の複合体が、器官となる。本科目においては、まず、動物愛護の精神（3R）を学んだ上で、植物、動物、微生物を材料とした顕微鏡観察から細胞の基本構造を把握する。また、カエルを材料とした肉眼解剖により、個体（脊椎動物）における各器官の構造と配列、さらには、基本的体制を把握する。また、これらの実験を通して、実験での心構えやルール、レポートの作成法等を学び、さらに、人体の正常構造と機能における学修項目について議論する。

## 2. 一般目標

生命科学教育を受け、得た知識をさらに深めるため、実際に生命体の基本構造を視覚的に理解するとともに、今後も必要になる対象の観察方法を、顕微鏡操作や解剖により修得する。

## 3. 到達目標

- 1) 動物愛護の精神（3つのR）を理解し、実践できる。
- 2) 顕微鏡・解剖器具が適切に使用できる。
- 3) 観察のための試料を適切に準備できる。
- 4) 構造の概要を説明できる。
- 5) 細胞分裂における染色体の動態を説明できる。
- 6) セントラルドグマについて説明できる。
- 7) DNAの構造と半保存的複製について説明できる。
- 8) 胚の発生過程を説明できる。
- 9) 各器官系を適切に分類できる。
- 10) 実験結果を正確、かつ、適切にまとめることができる。

## 4. 履修の進め方

- ①実習用と輪読用のプリントを班毎に輪読し予習する。
- ②ガイダンス（映像やスライド）において、実験を行う前に取り扱う生命体についての基礎知識及び実習手順を理解する（60分）。
- ③顕微鏡を適正に用いて、様々な細胞あるいはオルガネラ構造などを詳細に観察し、正しくスケッチする。また、器具を適正に用いて解剖を行い、各器官の構成や体内での配列などを詳細に観察し、スケッチする（180分）。
- ④実習で学ぶべき学習項目について、グループディスカッション（SGD）により議論し、グループワーク（GW）プロダクトを提出する。
- ⑤各自、実習内容をレポートやスケッチ課題にまとめ、提出期限日（原則、次の実習日）の朝8：30までに基礎医学研究棟4階の所定の提出場所に提出する。

## 5. 準備学修

事前学修：実習用と輪読用のプリントを班毎に輪読し、実習に関連する項目を調べ予習する。  
予習課題やグループワークがある場合は、自習し生物学の試験の際に提出する。（30分）

事後学修：実験観察で得られたスケッチやデータをもとに、レポート課題やスケッチ課題を期日までに作成し提出する。この際、結果を下記の教本1）～3）等で得た情報をもとに解釈し、与えられた課題の意義を理解する。（120分）

## 6. 評価方法

リクワイアメント【=レポート課題（100点×10回分）＋スケッチ課題（100点×2回分）＝総点（1200点）】を基に算定する。最終評価点は、12回の課題の総点から、課題点が悪い2回分の点数を除き、10回分の課題の総和の平均点、すなわち、式【最終評価（点）＝（課題12回の総点数－点が悪い課題2回分の点数）÷10】で算定し、65点以上を合格とする。各課題は、原則、実習日の1週間後の朝8：15までに提出する。期限内に遅れた場合は、課題点が遅延1日毎に25%減ぜられる。

尚、無断欠席の場合や未提出課題がある場合、総点から悪い方の課題点2回分を除いて10で割る。したがって、1回の無断欠席や未提出で90点満点（9回分）、2回で80点満点（8回分）、3回で70点満点（7回分）となる。したがって、4回分の課題未提出や無断欠席があると、60点満点（6回分）となり不合格となる。但し、やむを得ない理由がある欠席の場合（新型コロナウイルス感染症予防対策や学生生活委員会が認める疾病や傷による公欠など）は、その欠席分の課題点は考慮し（総点から引く課題点や割る数を調整し）、100点満点になるように換算する。また、レポートを全て提出した学生に限り、GW／形成的試験（15回全て）の課題の提出や実習再試験などにより、最終評価に65点まで加点されることがある。

## 7. 教本

下記の教科書と参考書を基に作成したプリント（第1～15回生物学実験ガイダンス）を進める。

- 1) 得意になる解剖生理学：美田誠二（著）照林社
- 2) ラングマン人体発生学第11版：T.W.Sadler（著）、安田峯生（翻訳）MEDSi社

## 8. 参考書

- 1) 基礎から学ぶ 生物学・細胞生物学 第2版：和田勝（著）羊土社
- 2) 人体の正常構造と機能 改訂2版：坂井建雄、河合克雅 総編集 日本医事新報社
- 3) 生物学（歯科衛生士教本）第1版：河合進次郎、高畑悟朗（著）医歯薬出版株式会社
- 4) アメリカ版大学生物学の教科書第1巻～第3巻：デイヴィッド・サダヴァ（著）
- 5) 高校の生物学の教科書、または、参考書

## 9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号、国：国家試験出題基準、担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1 2 3	4／9	第1回オリエンテーション：動物愛護の精神	実験目的・実験上の注意・動物愛護の精神（3R）／SGD・GW・3Rの確認試験	A-1-1,4／必4-アa	① ③
4 5 6	4／16	第2回生物学実験：顕微鏡の使い方とレポート作成	光学顕微鏡の操作法／SGD・GW・スケッチ・レポートの書き方の練習	A-1-2,4／必4-ア-a～c	ク
7 8 9	4／23	第3回生物学実験：細胞と細胞小器官の観察I	タマネギ鱗茎葉の表皮細胞の観察／SGD・GW・レポート（1）の作成	A-1-3,4／必4-ア-a～c	ク

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
10 11 12	5/7	第4回生物学 実験：細胞と 細胞小器官の 観察Ⅱ	ユスリカの唾 腺染色体の観 察 / SGD・ GW・レポー ト(2)の作成	A-1-4, 5/ 必4-ア-a~c	① ③
13 14 15	5/14	第5回生物学 実験：細胞と 細胞小器官の 観察Ⅲ	ラットの血球 細胞の観察/ SGD・GW・ レポート(3) の作成	A-1-4, A-3-1-4, A-4-2/ 必4-ア-d, g	〃
16 17 18	5/21	第6回生物学 実験：細胞分 裂①-体細胞 分裂	タマネギ根端 細胞の体細胞 分裂の観察/ SGD・GW・ レポート(4) の作成	A-1-4/ 必5-ア	〃
19 20 21	5/28	第7回生物学 実験：細胞分 裂②-減数分 裂	パラフィン切 片とH-E染 色法：精巣ま たは卵巣の染 色 / SGD・ GW・レポー ト(5)-1の作 成	A-2-1, A-3-1-11/ 必5-ア-a, 総Ⅱ-1-キ	〃
22 23 24	6/4	第8回生物学 実験：細胞分 裂③-生殖 子形成	生殖形成減 数分裂(精 細管と卵 細胞)の観察/ SGD・GW・ レポート(5) -2の作成	A-2-1, A-3-1-11/ 必5-ア-a, 総Ⅱ-1-キ	〃
25 26 27	6/11	第9回生物学 実験：細胞分 裂④-卵割と 初期発生	カエルの卵 割と初期発 生の観察/ SGD・GW・ レポート(6) の作成	A-2-1, A-3-1-11/ 必5-ア-a, 総Ⅱ-1-キ	〃
28 29 30	6/18	第10回生物学 実験：動物の 組織	動物の組織： 四大組織のス ケッチの練 習 / SGD・ GW・スケッ チ課題Ⅰの作 成	A-3-1-1~6/ 必4-ア-d	〃
31 32 33	6/25	第11回生物学 実験：器官系 の分類Ⅰ (カエルの解 剖1)	外形と消化器 官系・呼吸器 系の観察/ SGD・GW・ レポート(9) の作成	A-3-1-7, -8, A-3-3, 4/ 必4-ア-e, f, 総Ⅱ-1-ア, エ	〃
34 35 36	7/2	第12回生物学 実験：器官系 の分類Ⅱ (カエルの解 剖2)	心臓と泌尿生 殖器系・脈管 系の観察/ SGD・GW・ レポート(8) の作成	A-3-1-4, 10, 11/ 必4-ア-e, 総Ⅱ-1-ウ, キ	〃
37 38 39	7/9	第13回生物学 実験：器官系 の分類Ⅲ (カエルの解 剖3)	筋肉系と神経 系の観察と神 経筋標本の作 成 / SGD・ GW・レポー ト(9)の作成	A-3-1-3, 5/ 必4-ア-e, 総Ⅱ-1-イ, ク	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
40 41 42	7/16	第14回生物学 実験：器官系 の分類Ⅳ (カエルの解 剖4)	頭骨と神経 孔の観察/ SGD・GW・ レポート(10) の作成	A-3-2/ 必4-ア-e, 総Ⅱ-1-イ, ク, 総Ⅱ-4-イ, カ	① ③
43 44 45	7/23	第15回生物学 実験：歯の機 能の違い	さまざまな動 物の頭骨と 歯の観察/ SGD・GW・ スケッチ課題 Ⅱの作成	A-3-2, 4/ 必4-ア-e, 総Ⅱ-5-ア	〃

# 歯科医学演習（前期・1単位）

D①②③A-b1-1203(D1203)

科目責任者：鈴木 史彦（高齢・教授）

科目担当者：①鈴木 史彦（高齢）、②菊井 徹哉（修復）、  
③木村 裕一（歯内）、④高橋 慶壮（歯周）、  
⑤羽鳥 弘毅（冠橋）、⑥高橋文太郎（口外）、  
⑦高津 匡樹（有床）、⑧山崎 信也（麻酔）、  
⑨山野辺晋也（矯正）、⑩島村 和宏（小児）、  
⑪原田 卓哉（放射）、⑫高橋 昌宏（イン）、  
⑬山森 徹雄（病院）、⑭風間 咲美（医学）

※この科目は、主に診療経験のある歯科医師と医師が担当する

## 1. 科目の概要

歯科医学および歯科医療を学ぶ者にとって、歯科医学と歯科医療における知識、歯科医療の技術および歯科医師としての態度を習得することは必須の要件である。歯科医学と歯科医療の知識は一般教養科目、基礎歯科医学、社会歯科学及び臨床歯科医学の各科目を通して修得し、歯科医療の技術と歯科医師としての態度は、臨床歯科医学の模型実習と臨床実習や社会歯科学と倫理学等を通して学習する。このなかで、技術の学習は歯科医療にとって重要であり、歯科医学で学んだ理論を実践するうえで不可欠である。

歯科医学演習は、歯科医療の技術を学ぶために必要な基礎技術の訓練とともに、これから6年間にわたって歯科医学を学習する動機付けとして位置づけられる科目である。学習方法には、手指の動作を訓練するために日常生活のなかから選ばれた身近なテーマや、臨床歯科医学の教育内容と密接な「道具と手」に係わる演習が主体となる。

教育スタッフは、本学の臨床系科目を担当する講座から選出された教員によって組織されている。楽しみながら手指の動作や歯科医療に使用する器具とその使い方等を学び、歯科学生としての自覚を芽生えさせて欲しい。

## 2. 一般目標

専門課程における各科実習を行うために、基礎的な技術訓練に係る知識、技能および態度を習得する。

## 3. 到達目標

- 1) 学生同士で口腔内の状態を記録する。
- 2) 歯の硬組織治療を模倣して、歯冠修復における造形的治療を理解する。
- 3) 歯内治療で用いる器具の操作を模倣する。
- 4) プラークコントロール、とりわけ歯周病患者のブラッシング方法を習得する。
- 5) 彫刻刀を利用して、石膏を実際に彫刻する。
- 6) 外科手術の縫合を想定した糸結びを実践する。
- 7) クラスプワイヤーの屈曲を体験する。
- 8) マネキンで一次救命処置を実践する。
- 9) 顔の形態を評価する。
- 10) 小児の治療を想定した器具の使用法を実践する。
- 11) エックス線検査および超音波検査を実践する。
- 12) インプラント治療の特徴と意義を説明する。
- 13) 口腔内状態を正確に診療録に記載する。
- 14) 手洗いを実践する。
- 15) バイタルサインの測定を習得する。

## 4. 履修の進め方

スライドと資料を使用し、各分野の特徴的な技術を演習形式で履修する。

5. 事前学習：科目の概要、一般目標、到達目標および授業内容を認識しておく。(15分)

事後学習：授業内容を確認し十分に理解する。(30分)

## 6. 評価方法

各担当教員から100点満点として提出された点数を合計し、担当教員数で割った点数を評価点として65点以上の者を合格とする。

## 7. 教本

なし

## 8. 参考書

なし

## 9. 授業内容と日程

(コ：コアカリ記号、国：国家試験出題基準、担：担当教員)

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1 2	4/12	口腔診断	口腔内検査を体験する	E-2-2) / 必9-ア～エ、10-イ	① ⑨
3 4	4/19	保存修復学	歯の治療における窩洞とその形態を知る	E-3-3)-(1) / 各Ⅲ-5-イ、ウ	②
5 6	4/26	歯内療法学	根管治療器具の基本操作を実践する	D-5-2-2 各Ⅱ-2-ア、イ	③
7 8	5/10	歯周病学	プラークコントロール、とりわけ歯周病患者のブラッシング方法の習得	E-5-3-3-1 / 各Ⅱ-3-イ	④
9 10	5/17	冠橋義歯学	彫刻刀を用いて石膏棒を削る	E-5-3-4-1 / 各Ⅳ-3-アイウ	⑤
11 12	5/24	口腔外科学	手術器材を知り、縫合を体験する	D-5-4) / 総Ⅶ-4-ア	⑥
13 14	5/31	有床義歯学	クラスプワイヤーの屈曲を体験する	D-5-3-2 / 総Ⅶ-2-ア	⑦
15 16	6/7	歯科麻酔学	マネキンで一次救命処置(BLS)を実践する	D-1-1) / 必10, 総Ⅶ-3, 各Ⅲ-4-ソ	⑧
17 18	6/14	歯科矯正学	自己顔の形態を評価する	E-5-4) / 各Ⅰ-5,6	⑨
19 20	6/21	小児歯科学	小児の治療を想定した器具を理解する	D-5-6) / 総Ⅴ-2	⑩
21 22	6/28	歯科放射線学	エックス線の撮影・画像処理をする	D-2-5, E-2-5) / 必修-9-カ, 総Ⅵ-2-ア～コ	⑪
23 24	7/5	口腔インプラント学	インプラント治療の意義と特徴を理解する	D-5-3-3) / 各Ⅳ-6	⑫
25 26	7/12	臨床総合演習①	口腔内状態の記録	E-4-1 必修-8-キ-a	⑬
27 28	7/19	臨床総合演習②	手指の消毒を実践する	E-1-1) / 必-11	⑭
29 30	7/26	総合臨床医学	バイタルサインを実践する	D-6-1) / 総Ⅶ-1-エ	⑧ ⑭

## 歯科医療概論（通年・1単位）

D①②③A-a1-1204(D1204)

科目責任者：瀬川 洋（衛生・教授）

科目担当者：①瀬川 洋（衛生）、②南 健太郎（衛生）

※この科目は、診療経験のある歯科医師が担当する

### 1. 科目の概要

歯科医師を目指して歯学部に入学者にとり、歯科医学を学び、歯科医療ならびに保健指導を行う上で必要な心構えと6年間の学習の目標を設定することは重要である。また、患者中心の歯科医療を提供するために、プロフェッショナルリズムを身に付けることが必要である。

### 2. 一般目標

歯学部学生としての心構えと目標を設定するために歯科医学と歯科医療の概要を理解する。

### 3. 到達目標

- 1) 歯科医師の使命、魅力について説明する。
- 2) 歯科医学教育について説明する。
- 3) 歯科学生に必要な学修態度、学修方法を説明する。
- 4) 歯科医師として求められる基本的な資質について説明する。
- 5) 歯科医療と社会との関わりについて説明する。

### 4. 履修の進め方

文書視覚媒体と投影視覚媒体および配布資料を用いて履修する。

### 5. 準備学修

事前学習：配布資料を熟読しておくこと。(10分)

事後学習：受講後に、その内容を復習すること。(15分)

### 6. 評価方法

講義時間内に講義内容に関連した課題について筆記試験を行い、100点満点中、65点以上を合格とする。

### 7. 教本

なし

### 8. 参考書

日本歯科医学教育学会編「よき歯科医療人になるための倫理・プロフェッショナルリズム教育 プロフェッションワークブック」医歯薬出版 2019年

### 9. 授業内容と日程

(コ：コアカリ記号、国：国家試験出題基準、担：担当教員)

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	4/11	序 説	奥羽大学の理念と歴史	-	①
2	4/18	教育目標	奥羽大学歯学部の歯学教育と教育システム	-	〃
3	4/25	基本事項1	医の倫理と歯科医療の意義	C-1-1/ 必1-ア	〃
4	5/9	基本事項2	歯科医師の責務	C-1-2/ 必1-イ	〃
5	5/16	基本事項3	インフォームドコンセント	C-1-1/ 必1-イ	〃
6	5/23	歯学史	世界、日本の歯学史①	C-4-3/ 必-12-ア	〃
7	5/30	歯学史	世界、日本の歯学史②	A-2-2/ 必-12-ア	〃
8	6/6	地域保健活動	日本の歯科保健活動の変遷	C-4-3/ 総 I-1-オ	〃
9	6/13	医療安全1	安全な医療の確保	C-3-1/ 必2-カ	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
10	6/20	医療安全2	医療上の事故等への対処と予防	C-3-2/ 必2-カ	①
11	6/27	医療安全3	医療事故と医事過誤	C-3-2/ 必2-ク	〃
12	7/4	チーム歯科医療	医療連携・チーム医療①	C-1-3/ 必2-ウ	〃
13	7/11	チーム歯科医療	医療連携・チーム医療②	C-1-3/ 必2-ウ	〃
14	7/18	超高齢社会への歯科医学的対応	フレイルとオーラルフレイル	D-5-7/ 総2-オ	〃
15	7/25	歯科医師のプロフェッショナルリズム	事例に学ぶプロフェッショナルリズム	C-2-3,4/ 必12-イ	〃

# 基礎歯学概論 I (通年・2単位)

D②A-a2-1205(D1205)

科目責任者：安部 仁晴 (組織・教授)

科目担当者：①安部 仁晴 (組織), ②森山 光 (組織),  
③宇佐美晶信 (解剖), ④芹川 雅光 (解剖),  
⑤川合 宏仁 (生理), ⑥大須賀謙二 (生理),  
⑦古山 昭 (生理), ⑧玉井利代子 (感染)

※この科目は、主に診療経験のある歯科医師が担当する

## 1. 科目の概要

歯科医師として身につけなければならない知識を習得する上で、専門基礎科目は特に重要となる。その中で、2年時の履修科目となる専門基礎科目を中心に、履修前に予備知識として知っておくべき概論や要点について早期に学習する。

## 2. 一般目標

ディプロマ・ポリシー (3) の病態を解析するための基礎となる第2学年時の履修科目である専門基礎科目を中心に、その知識を習得する。

## 3. 到達目標

- 1) 歯と歯周組織の種類とそれらの微細構造を説明する。
- 2) 口腔顎顔面の形態の概要について説明する。
- 3) からだの基本的なはたらきを説明できる。
- 4) 微生物の構造とその病原性を説明する。
- 5) 歯の発生と加齢変化について説明する。
- 6) 微生物感染に対するヒトの免疫応答を説明する。

## 4. 履修の進め方

講義主体でスライド、プリント、板書で適宜進める。ノートを取り、プリントに追記する。

## 5. 準備学修

講義担当者から配布される資料や、図書館の資料を用いる。また、事前に次回プリントを配布される場合は、講義前にプリントを熟読しておくこと (事前学習：15分)。加えて、講義受講後に、その内容を復習すること (事後学習：30分)。

## 6. 評価方法

MCQによる定期試験 (100%) で評価する。前期、後期定期試験の平均が65点以上を合格とする。追・再試験は前期、後期の全範囲で行い、結果は65点を上限とする。

## 7. 教本

講義担当者から配布される資料を用いる。

## 8. 参考書

なし

## 9. 授業内容と日程

(コ：コアカリ記号, 国：国家試験出題基準, 担：担当教員)

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	4/12	口腔組織学概論①	歯の構造 (エナメル質)	A-3-4/ 必4-ア 総Ⅱ5-イ	①
2	4/19	口腔組織学概論②	歯の構造 (象牙質)	A-3-4/ 必4-ア 総Ⅱ5-イ	②
3	4/26	口腔組織学概論③	歯の構造 (歯髄)	A-3-4/ 必4-ア 総Ⅱ5-イ	①
4	5/10	口腔組織学概論④	歯周組織の構造 (1)	A-3-4/ 必4-ア 総Ⅱ5-イ	〃
5	5/17	口腔解剖学概論①	歯の解剖 (総論)	A-3-4/ 必4-ア 総Ⅱ5-ア	③

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
6	5/24	口腔解剖学概論②	歯の解剖 (各論)	A-3-4/ 必4-ア 総Ⅱ5-ア	③
7	5/31	口腔解剖学概論③	骨学	A-3-4/ 必4-ア	④
8	6/7	口腔解剖学概論④	脈管学	A-3-4/ 必4-ア	〃
9	6/14	口腔生理学概論①	体液	A-3-1/ 必4-ア 総Ⅱ1-カ	⑤
10	6/21	口腔生理学概論②	循環と呼吸	A-3-1/ 必4-ア 総Ⅱ1-ウ, エ	⑥
11	6/28	口腔生理学概論③	口腔感覚	A-3-1/ 必4-ア 総Ⅱ1-ク	⑦
12	7/5	口腔生理学概論④	神経線維の種類と機能	A-3-1/ 必4-ア 総Ⅱ1-ク	〃
13	7/12	口腔感染免疫学概論①	微生物の種類	A-4-1-1/ 必4-イ	⑧
14	7/19	口腔感染免疫学概論②	細菌の病原性について	A-4-1-2/ 総Ⅲ1-キ	〃
15	7/26	口腔感染免疫学概論③	滅菌の種類とその特徴	A-4-1-8/ 必11-エ	〃
16	9/6	口腔組織学概論⑤	歯周組織の構造 (2)	A-3-4/ 必4-ア 総Ⅱ5-イ	①
17	9/13	口腔組織学概論⑥	歯の発生	A-3-4/ 必5-ウ 総Ⅱ8-イ	②
18	9/20	口腔組織学概論⑦	歯と歯周組織の加齢変化	A-2-4/ 必5-エ 総Ⅱ7-エ 各V3-イ	①
19	9/27	口腔解剖学概論⑤	神経学	A-3-1/ 必4-ア	④
20	10/4	口腔解剖学概論⑥	筋学	A-3-1/ 必4-ア	③
21	10/11	口腔解剖学概論⑦	機能解剖学	A-3-2/ 総Ⅱ6-エ	〃
22	10/18	口腔生理学概論⑤	自律機能	A-3-1/ 必4-ア 総Ⅱ1-ク	⑥
23	10/25	口腔生理学概論⑥	内分泌	A-3-1/ 必4-ア 総Ⅱ1-ケ	〃
24	11/1	口腔生理学概論⑦	排泄	A-3-1/ 必4-ア 総Ⅱ1-キ	〃
25	11/8	口腔感染免疫学概論④	消毒薬の種類とその特徴	A-4-1-8/ 必11-エ	⑧
26	11/15	口腔感染免疫学概論⑤	細菌の病原因子	A-4-1-2/ 総1-キ	〃
27	11/22	口腔感染免疫学概論⑥	自然免疫と獲得免疫	A-4-2-1, 2/ 総Ⅱ3-エ, オ	〃
28	11/29	口腔感染免疫学概論⑦	新たな感染症	A-4-1-4/ 総Ⅲ1-キ	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
29	12/6	口腔感染免疫学概論⑧	ワクチンによる感染予防	A-4-2-7/ 総Ⅱ3-オ	⑧
30	12/13	口腔組織学概論⑧	歯と歯周組織の構造	A-3-4/ 必4-ア 総Ⅱ5-イ	①

## 臨床歯学概論（前期・1単位）

D①②③A-a1-1207(D1207)

科目責任者：鈴木 史彦（高齢・教授）

科目担当者：①鈴木 史彦（高齢）、②菊井 徹哉（修復）、  
③木村 裕一（歯内）、④高橋 慶壮（歯周）、  
⑤羽鳥 弘毅（冠橋）、⑥高橋文太郎（外科）、  
⑦高津 匡樹（有床）、⑧山崎 信也（麻酔）、  
⑨山野辺晋也（矯正）、⑩島村 和宏（小児）、  
⑪原田 卓哉（放射）、⑫高橋 昌宏（イン）、  
⑬吉田 健司（障害）、⑭風間 咲美（医学）

※この科目は、主に診療経験のある歯科医師と医師が担当する

### 1. 科目の概要

歯科医師を目指して歯学部に入學した直後に歯科医療の現場を知ることは、これから6年間の勉強の目標を設定するうえで重要なことである。歯科医師に求められる資質には、①社会人として信頼できること、②歯科医療に対する知識・技能を有すること、③保健に関する助言・援助ができること、④生涯にわたり研修意欲を持ち続けること、⑤患者に対して十分な説明を行い、同意を得るという考え方を尊重すること、などがある。

### 2. 一般目標

歯科医学・歯科医療を学ぶ目標を設定するために、先進的かつ近未来の歯科医療の現場を視覚的に理解し、歯科医療を行う上で問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、その問題を解決できる力を身につける。

### 3. 到達目標

- 1) 歯科の臨床を視て今後の学習の目標を認識する。
- 2) う蝕・非う蝕性硬組織疾患の種類と歯冠修復治療の概要を把握する。
- 3) 歯内治療の概要を説明する。
- 4) 歯周病学について概説する。
- 5) クラウンブリッジにより補綴治療を説明する。
- 6) 口腔外科領域で行われる小手術を列挙する。
- 7) 有床義歯による欠損補綴の概要を説明する。
- 8) 歯科麻酔科の仕事内容を説明する。
- 9) 歯科矯正治療の手順を説明する。
- 10) 乳幼児期の特徴について概論を理解する。
- 11) 画像検査法の目的と意義を説明する。
- 12) インプラントによる補綴治療を説明する。
- 13) 摂食嚥下リハビリテーションを説明する。
- 14) 障がい者の概要を説明する。
- 15) 歯科医師に必要な医学知識を習得する。

### 4. 履修の進め方

基本的には講義形式でスライドと資料を使用して履修する。

5. 事前学習：科目の概要、一般目標、到達目標および授業内容を認識しておく。(15分)

事後学習：授業内容を確認し十分に理解する。(30分)

### 6. 評価方法

各担当教員から100点満点として提出された点数を合計し、担当教員数で割った点数を評価点として65点以上の者を合格とする。

### 7. 教本

なし

### 8. 参考書

なし

## 9. 授業内容と日程

(コ：コアカリ記号, 国：国家試験出題基準, 担：担当教員)

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	4/12	科目の説明	基本的診療技能	E-2-2) / 必9-ア～エ, 10-イ	① ⑨
2	4/19	歯冠修復治療	歯の硬組織疾患の診断, 治療と身体の健康保持	E-3-3) (1) / 各Ⅲ-2-ア, イ, B-3-2)- ①②③④	②
3	4/26	歯内治療	歯髄・根尖歯周疾患の診断と治療	D-5-2-2 各Ⅱ-2-ア, イ	③
4	5/10	歯周治療	歯周疾患の病態, 診断および治療	E-3-3) (3) / 各Ⅲ-8-ア, 9-イ	④
5	5/17	冠橋義歯治療	クラウンブリッジの治療	E-5-3-4-1 / 各Ⅳ-3-アイウ	⑤
6	5/24	口腔外科治療	小手術の基本	D-5-4) / 総Ⅶ-4-ア	⑥
7	5/31	有床義歯治療	有床義歯による欠損補綴の概要	D-5-3-2) / 総Ⅶ-2-ア	⑦
8	6/7	歯科麻酔治療	歯科麻酔の基本	D-1-2) / 必11-カ, 総Ⅶ-4	⑧
9	6/14	歯科矯正治療	不正咬合の治療	E-5-4) / 各Ⅰ-5, 6	⑨
10	6/21	小児歯科治療	小児の歯科治療	D-5-6) / 総Ⅴ-2	⑩
11	6/28	歯科放射線治療	画像検査	D-2-5, E-2-5) / 必修-9-カ, 総Ⅵ-2-ア～コ	⑪
12	7/5	インプラント治療	インプラントによる補綴治療	D-5-3-3) / 各Ⅳ-6	⑫
13	7/12	摂食嚥下治療	摂食嚥下リハビリテーションの基本	D-5-7-8) / 総Ⅶ-6-イ-a	⑬
14	7/19	障がい者歯科診療	スペシャルニーズを有する人への対応	E-5-7) / 必-2-ア, 総Ⅴ-3	⑬
15	7/26	歯科と医学の知識	歯科と医学の知識	D-6-1) / 総Ⅶ-1-エ	⑭

## 臨床心理学 (後期・1単位)

D①②③A-a1-1201 (D1201)

科目責任者：佐藤 歩 (心理・講師)

科目担当者：①佐藤 歩 (心理)

※この科目は、公認心理師である教員が担当する

### 1. 科目の概要

臨床心理学とは、様々な心の悩みを乗り越えようとする人間を心理学的に支援する学問である。人間存在が持つ様々な悩み、悩みに陥る心の構造とプロセス、支援の方法を学んでいく。臨床心理学では、代表的な精神疾患および心理的問題を項目別に学んでいく。

### 2. 一般目標

臨床心理学の基礎を学び、人間が人間を心理的に支援することの意味と悩みを抱える人の立場や背景を理解する (ディプロマ・ポリシー「1」に該当する)。

臨床心理学を学ぶことで、医療従事者として患者に思いやりを持った言動に心がけると共に、患者を尊重することの重要性を理解する (ディプロマ・ポリシー「1」に該当する)。

臨床心理学の知識を生かし、自己のパーソナリティ特性を理解する。

### 3. 到達目標

- 1) ストレスについて説明できる。
- 2) うつ病について説明できる。
- 3) 統合失調症について説明できる。
- 4) 不安症について説明できる。
- 5) 摂食症について説明できる。
- 6) 神経発達症について説明できる。
- 7) 愛着障害について説明できる。
- 8) パーソナリティ症について説明できる。
- 9) 自殺、自傷行為について説明できる。

### 4. 履修の進め方

講義形式でスライドとプリントを使用して履修する。

### 5. 準備学修

予習：次時のテーマについて、歯科医療の場面で自分であれば、どのように対応するかを具体的に考えておく。(15分)

復習：授業中の思考、講義の内容を自分の問題としてまとめておく。(15分)

### 6. 評価方法

定期試験 (本試験・追試験・再試験) で65点以上の者を合格とする。全授業範囲を記述、選択式で実施する。

### 7. 教本

なし。下記参考書と、毎回科目担当者がプリントを配付する。

### 8. 参考書

ベーシック心理学 第2版 二宮克美編著 医歯薬出版

## 9. 授業内容と日程

(コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員)

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	9/4	ストレス対応とPTSD	ストレッサーとストレス反応，ストレスコーピング，PTSDの予防	D-5-9) / 各Ⅲ-4-シc	②
2	9/11	うつ病の理解	うつ病の心理特性と対応及び予防	D-5-9) / 各Ⅲ-4-シa	ク
3	9/18	自殺の理解	自殺の心理特性と対応及び予防	D-5-9) / 各Ⅲ-4-シ	ク
4	9/25	自傷行為の理解	自傷行為の心理特性と対応及び予防	D-5-9) / 各Ⅲ-4-シ	ク
5	10/2	統合失調症	統合失調症の症状と対応	D-5-9) / 総Ⅶ-1-エg	ク
6	10/9	摂食症	摂食症の分類及び心理特性と対応	D-5-9) / 必6-アj	ク
7	10/16	不安症	不安症の心理特性と対応	D-5-9) / 各Ⅲ-4-シ	ク
8	10/23	パニック症	パニック症の心理特性と対応	D-5-9) / 各Ⅲ-4-シb	ク
9	10/30	パーソナリティ症	パーソナリティ症の心理特性と対応	D-5-9) / 各Ⅲ-4-シb	ク
10	11/6	その他の精神疾患	その他の精神疾患の分類及び心理特性と対応	D-5-9) / 各Ⅲ-4-シ	ク
11	11/13	神経発達症①	神経発達症の分類及び心理特性と対応	D-5-8) / 総Ⅴ-2-オabc	ク
12	11/20	神経発達症②	神経発達症の分類及び心理特性と対応	D-5-8) / 総Ⅴ-2-オabc	ク
13	11/27	愛着障害	愛着障害の原因及び対応	A-2-2) / 必5-イabc	ク
14	12/4	災害心理学	災害を含めた危機状況での心理	C-4-3) / 必7-ア，各Ⅲ4-シ	ク
15	12/11	まとめ	全体の振り返り，ポイントの整理	D-5-9) / 必6-アi，必6-イr	ク

## 歯科医療人間学 I (後期・2単位)

D①A-a2-1401(D1401)

科目責任者：中川 敏浩 (組織・准教授)

科目担当者：①中川 敏浩 (組織)，②吉田いくよ (非常勤)，  
③鈴木 俊子 (非常勤)，④本多 真史 (日本語)，  
⑤清浦 有祐 (感染)

※この科目は，主に一般企業勤務経験のある教員が担当する

### 1. 科目の概要

歯科医療人間学 (Dental Practice Human Science) は，本学歯学部目的である「高度な専門知識と技術を備えた人間性豊かな歯科医師の養成」を実践する学問であり，高度専門職業人 (プロフェッショナル) としての歯科医師である前に社会人としての素養，教養および社会適応能力を高揚し，自らのホスピタリティマインドに加えて，患者中心の医療を全人的に捉えるため，身体面，心理面，社会面，倫理面の各要素を総合的かつ包括的に理解し，「歯科医療の安全・安心・信頼の文化」を醸成することにある。

### 2. 一般目標

人間性豊かな優れた歯科医師となるために，大学で学ぶ目的を明確化し，歯学医療現場にふれ，基本的なコミュニケーションや日常習慣の重要性を認識する態度，知識および技能を修得する。

### 3. 到達目標

- 1) 医療人として謙虚な態度と傾聴力を養う。
- 2) 患者の訴えを正確に聞き取る。
- 3) 平易な言葉で順序立てて説明する。
- 4) 医療現場に必要な言葉でコミュニケーションする。

### 4. 履修の進め方

グループおよびペアによる学修を行う。授業形態はプリントを配布し，レポート提出形式をとることもあるので受動的な学習でなく，必ず参加が義務づけられる能動的学習である。

### 5. 準備学修

- 予 習：シラバスで内容を確認する。また，人と接する時は状況を把握し，意識をして対応することを日頃から心がける。(30分)
- 復 習：プリント学修や実演したことを自然に実践できるように日々訓練をする。

### 6. 評価方法

プレゼンテーション (50%)，記述式試験 (50%) により評価を行い，65点以上を合格とする。

### 7. 教本

日本学術振興会編 「科学の健全な発展のために－誠実な科学者の心得－」 テキスト版 日本学術振興会 2015年

### 8. 参考書

なし



### 9. 授業内容と日程

(コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員)

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1 2	9/2	パフォーマンス学総論①	自分をどのように表現するかを実感する	CM-01～05, CS-D-2-1, E-2-1/ 必8-ウ-a～e	① ② ③
3 4	9/2	コミュニケーションの基礎①	コミュニケーションに必要なことを演習する	CM-01～05, E-2-1/ 必8-ウ-a～e	④
5 6	9/9	あいさつについて	あいさつの重要性を実感し信頼関係の重要性について演習する	CM-01～05, CS-D-2-1, E-2-1/ 必8-ウ-a～e	① ② ③
7 8	9/30	エニアグラム－表現・自他の理解の為に－	エニアグラムにより自他のタイプを知り人間関係の構築に役立てる	CM-01～05, CS-D-2-1, E-2-1/ 必8-ウ-a～e	① ② ③
9 10	9/30	コミュニケーションの基礎②	コミュニケーションに必要なことを演習する	CM-01～05, CS-D-2-1, E-2-1/ 必8-ウ-a～e	④
11 12	10/7	説明力－伝わる話し方－	伝えるではなく伝わる論理的な会話の仕方を学ぶ	CM-01～05, CS-D-2-1, E-2-1/ 必8-ウ-a～e	① ② ③
13 14	10/7	医療と敬語について①	医学用語と一般用語の関連	CM-01～05, CS-D-2-1, E-2-1/ 必8-ウ-a～e	④
15 16	10/21	グループディスカッション	文章から事実を理解要約し考えや意見を伝える	CM-01～05, CS-D-2-1, E-2-1/ 必8-ウ-a～e	① ② ③
17 18	10/21	医療と敬語について②	医学用語と一般用語の関連	CM-01～05, CS-D-2-1, E-2-1/ 必8-ウ-a～e	④
19 20	10/28	医療人の恕・態度・傾聴力	痛みに対する歯科医師の態度表現を会得する	CM-01～05, CS-D-2-1, E-2-1/ 必8-ウ-a～e	④
21 22	11/11	ビジネスマナー	社会人としてのマナーの基礎を学ぶ	CM-01～05, CS-D-2-1, E-2-1/ 必8-ウ-a～e	① ② ③
23 24	11/18	歯科診療とアサーション①	患者の訴えをソフトな言葉で会話する	CM-01～05, CS-D-2-1, E-2-1/ 必8-ウ-a～e	④
25 26	11/25	表現・自分を知る	演習を通し、自分の表現を客観視する	CM-01～05, CS-D-2-1, E-2-1/ 必8-ウ-a～e	① ② ③
27 28	12/2	歯科診療とアサーション②	患者の訴えをソフトな言葉で会話する	CM-01～05, CS-D-2-1, E-2-1/ 必8-ウ-a～e	④

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
29	12/9	研究倫理	研究者に求められる研究倫理と研究不正防止の試み	E-01, 04/ 必2-エ-a	⑤
30	12/9	試験評価	評価試験を行う	CM-01～05, CS-D-2-1, E-2-1/ 必8-ウ-a～e	① ④